



# 宇都宮の名木

宇都宮市教育委員会



表紙写真

旭町の大イチョウ

(市指定天然記念物)

文化財シリーズ第5号

# 宇都宮の名木

昭和57年2月

宇都宮市教育委員会

## 序 文

人間は、「五行思想」の五行である「木・火・土・金・水」に代表される自然を何万年もの間、友とし繁栄を続けてきました。

人間をはじめとする生けるものも、自然を構成する一部ですが、人間は、自然から多くの恩恵を受けて生きています。

樹木は、五行の最初に位置づけられているように自然界の王者であり、樹木によって作り出される緑の環境は人間にとってなくてはならない存在です。

しかし、都市における緑の環境は、年をおうごとに消失しているのが現実です。本市も例外ではありません。

都市化の波は、市街地はいうにおよばず郊外の平地林や丘陵の緑をも侵食し、緑の景観を著しく破壊しつつあります。

本市では、緑地保護の見地から関係各課で努力しておりますが、教育委員会でも昭和51年度から市内に所在する巨木・古木・珍木の調査を実施してまいりました。

この間、中間報告をかねて『一宇都宮市・郷土の名木―「名木のしおり」(昭和52年10月)』を刊行しましたが、今回この目録に補足調査した樹木を加え若干の解説を記してまとめたものが本冊子です。

「文化財」という言葉の響きには、絵画・彫刻・書跡等の有形文化財に代表される人間の創造物という観念を持つ傾向がありますが、樹木も立派な文化財なのです。

どうか、この冊子が、より多くの市民の皆さんの目にとまり、樹木に対する認識を新たにしていただき、更に多くの名木の発見と本市文化財の保護保存に役立てば幸いです。

終りにになりましたが、本冊子の刊行に当り、調査・編集に携われた本市文化財保護審議委員会委員及び文化財調査員並びに御協力をいただきました関係各位に心から感謝の意を表します。

昭和57年2月

宇都宮市教育委員会

教育長 後 藤 一 雄



# 「宇都宮の名木」発刊に際して

宇都宮市文化財保護審議委員会

委員 森 谷 憲

本書は、昭和51年度から55年度にかけて実施した、市文化財調査員各位の調査を基礎としてまとめたものである。

現行の文化財保護法は、文化財を五つの種類に区分しているが、その一つに「記念物」がある。記念物は、天然記念物・名勝・史跡に3分され、さらに天然記念物は、植物・動物・地質鉱物の三つに分かれている。

樹木は、当然この天然記念物（植物）のなかに含まれ、巨木、古木、珍木等になると国・県・市町村等によって指定、保護されている。

宇都宮市内で天然記念物に指定されている樹木は、県指定2件、市指定17件であるが、市内には指定物件に準ずる樹木や由緒のある樹木が多数現存している。

本書は、市内の巨木・古木・珍木等を、指定を受けている樹木と共に収録し「宇都宮の名木」と題して発刊したものである。

宇都宮は、かつて他に誇り得る「七木」と呼ばれる7本の名木が存在した土地柄であり、本書により現代の名木に関心を深めていただけると考えている。

本書に所収した樹木のほとんどは、100年以上経過しており、私達や私達の先祖の生活をだまってい守ってくれた名木であり、今後も保護保存し子孫に伝えたいものである。

最後に、編集に携った者として、本書に掲載されなかった名木の発見と樹木に対する深い御理解をいただくことを念じ、発刊のことばとする。

昭和57年2月

# 目 次

序 文	2
発行に際して	3
まえがき	5
凡 例	6
所在地分布図	7
1. アカシデ	12
2. イチョウ	13
3. イヌシデ	15
4. イヌツゲ	15
5. カキ	17
6. カシ類	18
7. カヤ	19
8. カリン	21
9. クスノキ	21
10. クスギ	22
11. ケヤキ	22
12. ケンポナシ	24
13. コウヤマキ	25
14. コウヨウザン	26
15. コノテガシワ	26
16. サクラ類	27
17. サイカチ	31
18. サツキ	31
19. サルスベリ	32
20. サンシュユ	33
21. シナノキ	33
22. スギ	34
23. ツガ	36
24. ツバキ	37
25. ドウダンツツジ	37
26. トチノキ	38
27. ナツグミ	38
28. ナツメ	39
29. ナンキンハゼ	39
30. ハリギリ	40
31. ヒイラギ	40
32. ヒトツバタゴ	41
33. ヒバ類	41
34. フジ	42
35. マツ類	44
36. ムクロジ	45
37. モチノキ	46
38. モミ	46
39. モミジ類	47
40. ヤシャブシ	48
41. ヤマツツジ	48
42. ラクウショウ	49
宇都宮大学構内所在名木一覧	50
あとがき	51



# ま え が き

本冊子は、昭和51年度から55年度の5年間、継続して調査を実施した「市内所在名木調査」の結果をもとにしてまとめたものです。

調査は、第1次一斉調査を初年度（51年度）と最終年度（55年度）に、中間の3か年を第1次一斉調査の補足調査期間として実施しました。

5年間の調査の結果、報告された樹木は270本を数えましたが、これを市文化財保護審議委員会委員の森谷憲氏を中心とした本冊子編集委員会で検討し、掲載する樹木を決定しました。

掲載樹木の選定にあたっては、一応、次の基準を設定しました。

- ・ 県、市の天然記念物に指定されている樹木
- ・ 上記の指定樹木に準ずる樹木
- ・ 指定樹木以外の大きい樹木
- ・ 小さいが、形状が珍しかったり希少価値等がある樹木

なお、基準内であっても、人目に触れることの少ない山林中の樹木、また明らかに商品と考えられる樹木、及び宇都宮大学構内の樹木（樹木名だけ巻末に掲載）は除外しました。

本冊子の編集は、下記の市文化財保護審議委員会委員及び市文化財調査員のうち※印の各位と市教育委員会社会教育課の職員があたりました。

## ● 宇都宮市文化財保護審議委員会委員

野 中 退 藏（委員長）	雨 宮 義 人（副委員長）	岩 崎 良 能（委員）
※森 谷 憲（委員）	富 祐 次（委員）	谷田部 康 幸（委員）
嶋 静 夫（委員）	※阿久津 浩（委員）	小 堀 時 蔵（委員）
戸 田 博 亘（委員）		

## ● 宇都宮市文化財調査員

※黒 川 孝 三（一条）	塚 田 宗 雄（陽 北）	加 藤 康 照（旭）
内 藤 二 郎（陽 南）	石 川 秀 男（陽 西）	釜 井 宗 一（星が丘）
松 本 文 一 郎（陽 東）	平 塚 良 雄（泉が丘）	桑 川 弘 明（宮の原）
菊 池 正 仁（平 石）	直 井 茂 吉（清 原）	増 渕 藤 四 郎（横 川）
坂 寄 悦 男（瑞穂野）	手 塚 英 男（豊 郷）	半 田 勝（国 本）
高 山 伝 治（城 山）	福 田 操（富 屋）	阿久津 義 正（篠 井）
※松 本 笑 悦（姿 川）	小 島 豪 市 郎（雀 宮）	—（ ）は担当地区—

## ● 宇都宮市教育委員会社会教育課職員

半 田 昭（社会教育課長）	河 越 昌 司（文化振興係長）	定 岡 明 義（文化振興係）
桜 井 敬 朔（文化振興係）	木 村 光 男（文化振興係）	渡 辺 卓（文化振興係）

# 凡 例

## 1. 所在地分布図の標示

- (1) 例-1 )・1-(3) 先の数字は樹種を、( )内の数字は個々の樹木を表示したものである。例は、本文中の1すなわち「アカシデ」の項であり、(3)は「龍光寺跡のアカシデ」を表わしている。
- (2) 例-2 )・2-(1) 数字の下の1本線は、市指定の天然記念物の樹木であり、例は、「旭町の大イチョウ」である。なお、2本線の場合は県指定樹木を表示したものである。
- (3) 例-3 )・ $\left\{ \begin{array}{l} 5-(3) \\ 7-(5) \end{array} \right.$  ほぼ、同地点に2本以上の樹木が存在する場合は、 $\{$ で表示した。例は、坂本宅の「幕田町のカキ」と「幕田町のカヤ」である。

## 2. 本文の構成

### (1) 樹種の配列

掲載樹種の配列は、五十音順とした。

### (2) 樹種別一覧表

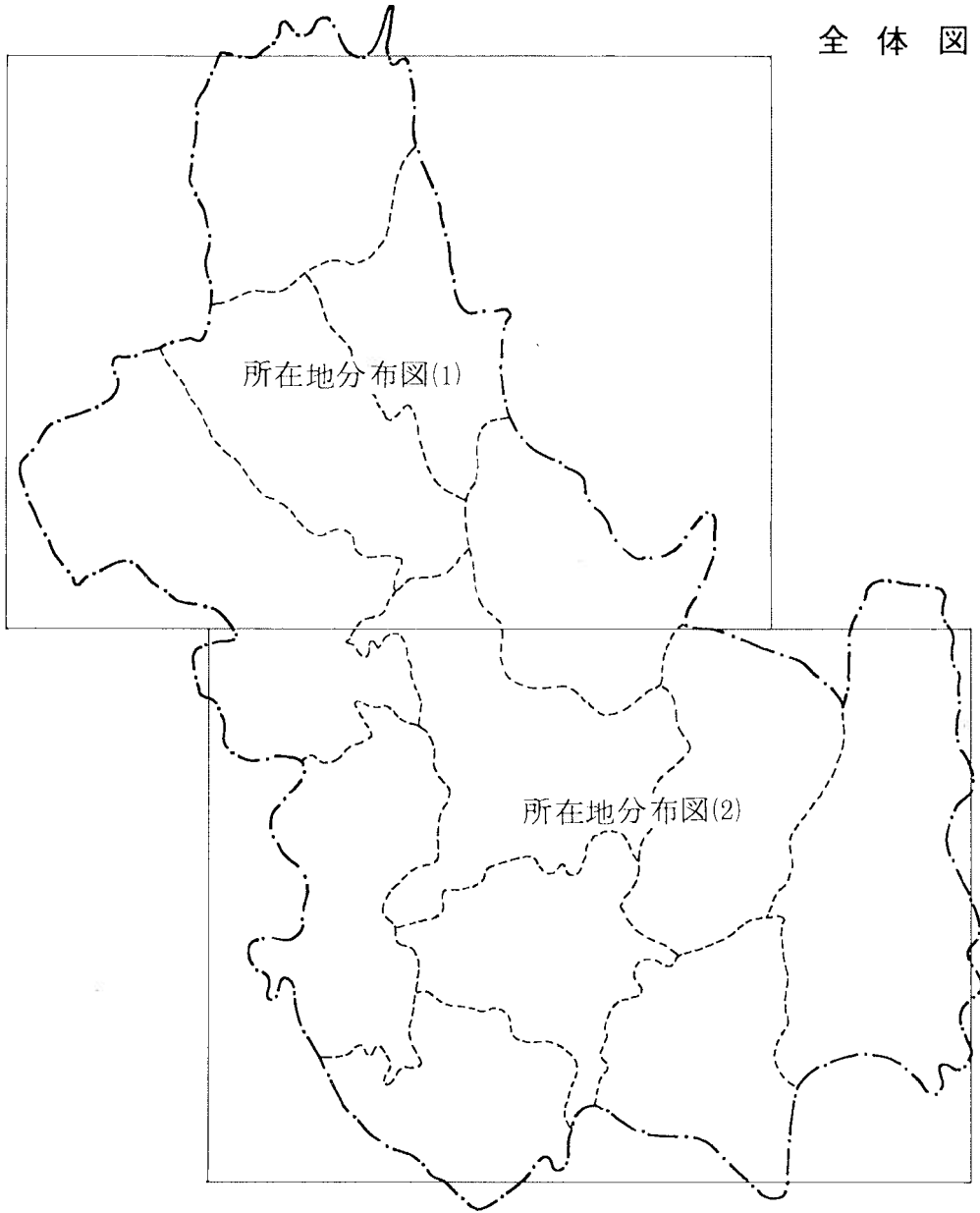
- ① 「名称」の樹種の前につけた個有名詞は、指定樹木名及び一般的通称として使用されているものについてはこれを採用し、それ以外のものについては市教委事務局で便宜上つけたものである。
- ② 「所有（管理）者」の項のうち、寺院の境内に所在するものは住職名、神社については神官名を記載した。
- ③ 「高」は、樹高であり単位はmである。
- ④ 「周」は、目通り周囲であり単位はmであるが、一部根回り周囲を記載したものがある。根回り周囲は、2.0のように数字の下に線を記して示した。
- ⑤ 同一場所にあつて同種の樹木が2本以上ある場合は、そのうち大きい樹木の数値を「高」「周」欄に記載した。

### (3) 所在地略図

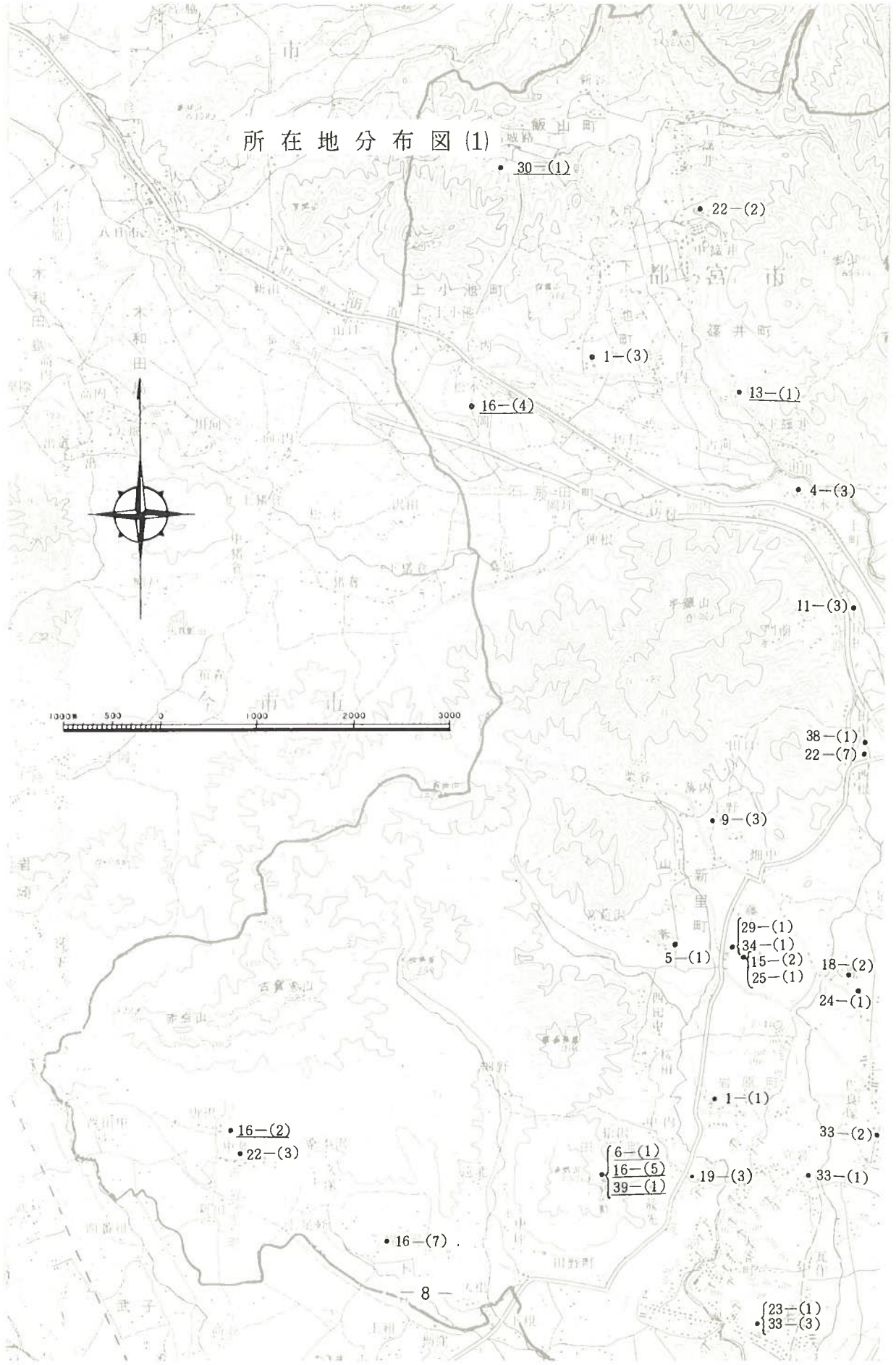
- ① 略図は、全て図の上部が北である。
- ② 略図は、縮尺にとらわれず目標を誇張して記した。



全体図



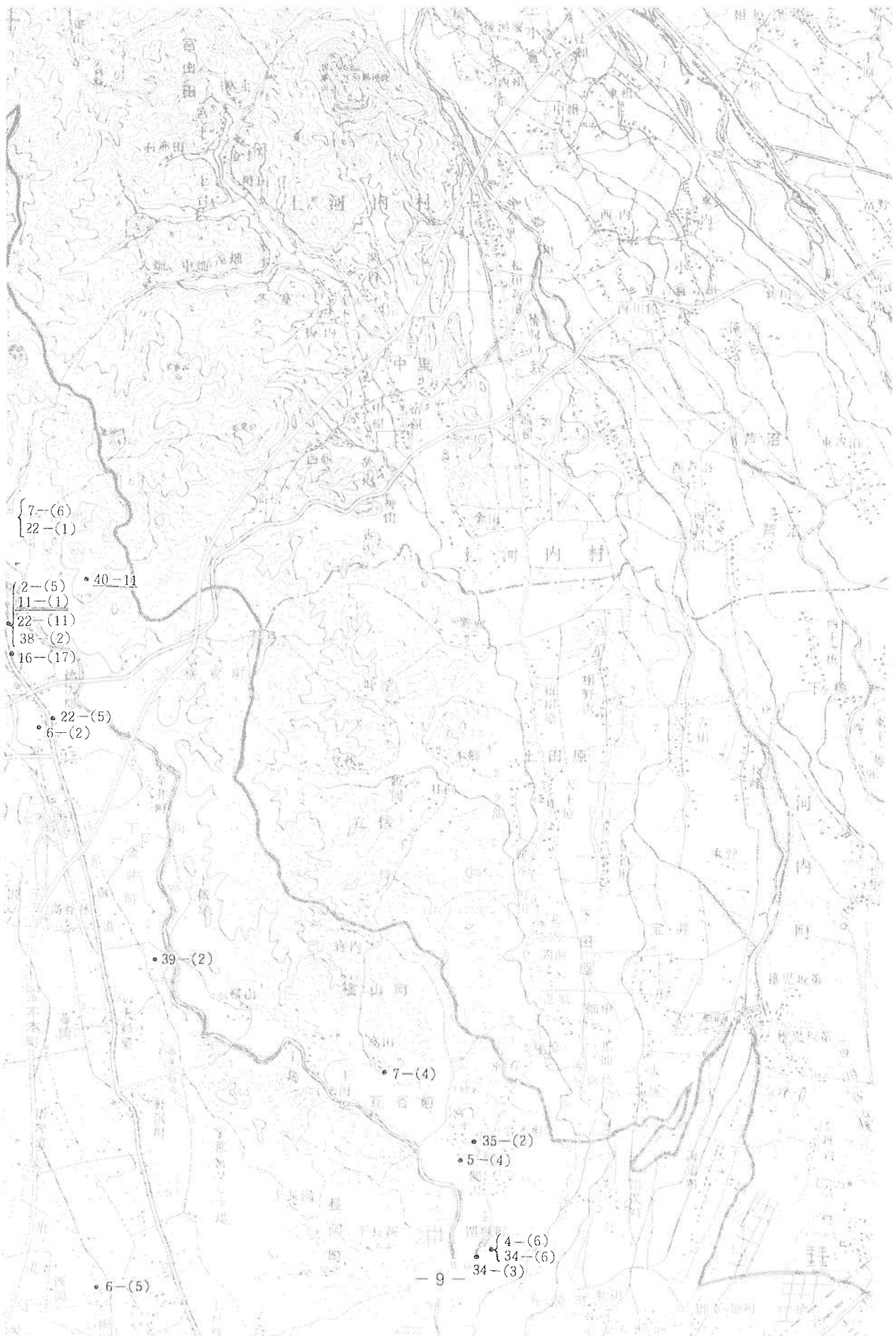
所在地分布图(1)



1000 500 0 1000 2000 3000







{ 7-(6)  
22-(1)

( 2-(5)  
11-(1)  
22-(11)  
38-(2)  
16-(17)

• 40-11

• 22-(5)  
6-(2)

• 39-(2)

• 7-(4)

• 35-(2)  
• 5-(4)

• 4-(6)  
• 34-(6)  
• 34-(3)

• 6-(5)

• 8-(1)

• 19-(1)

• 31-(3)

• {15-(1)  
16-(8)}

9-(1)

16-(1)

• 1-(2)

• 2-(6)

• 20-(1)

• 22-(10)

• 16-(10)

• 34-(4)

18-(1)

• 16-(13)

• 16-(12)

{6-(6)  
26-(1)

• 2-(4)

• 31-(2)

• 5-(2)

• 16-(9)

• 4-(7)

• 2-(3)

7-(2)

• 10-(1)

• 2-(1)

• 11-(8)

32-(1)

{6-(3)  
11-(5)  
35-(3)  
19-(2)

36-(1)

• 4-(2)

• 2-(7)

{8-(2)  
11-(7)

{4-(1)  
19-(4)

• 25-(3)

13-(2)

• 34-(1)

• 4-(4)

11-(2)

• {3-(1)  
22-(9)

• 27-(1)

{16-(6)  
37-(1)

• 21-(1)

• 41-(2)

• 11-(10)

• 35-(4)

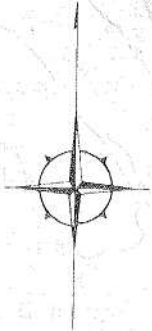
• 12-(1)

28-(2)

• 16-(14)

• 16-(15)

4-(5)



所在地分布图(2)

• 34-(2)

• 7-(3)

{5-(3)  
7-(5)

• 35-(1)

• 13-(3)

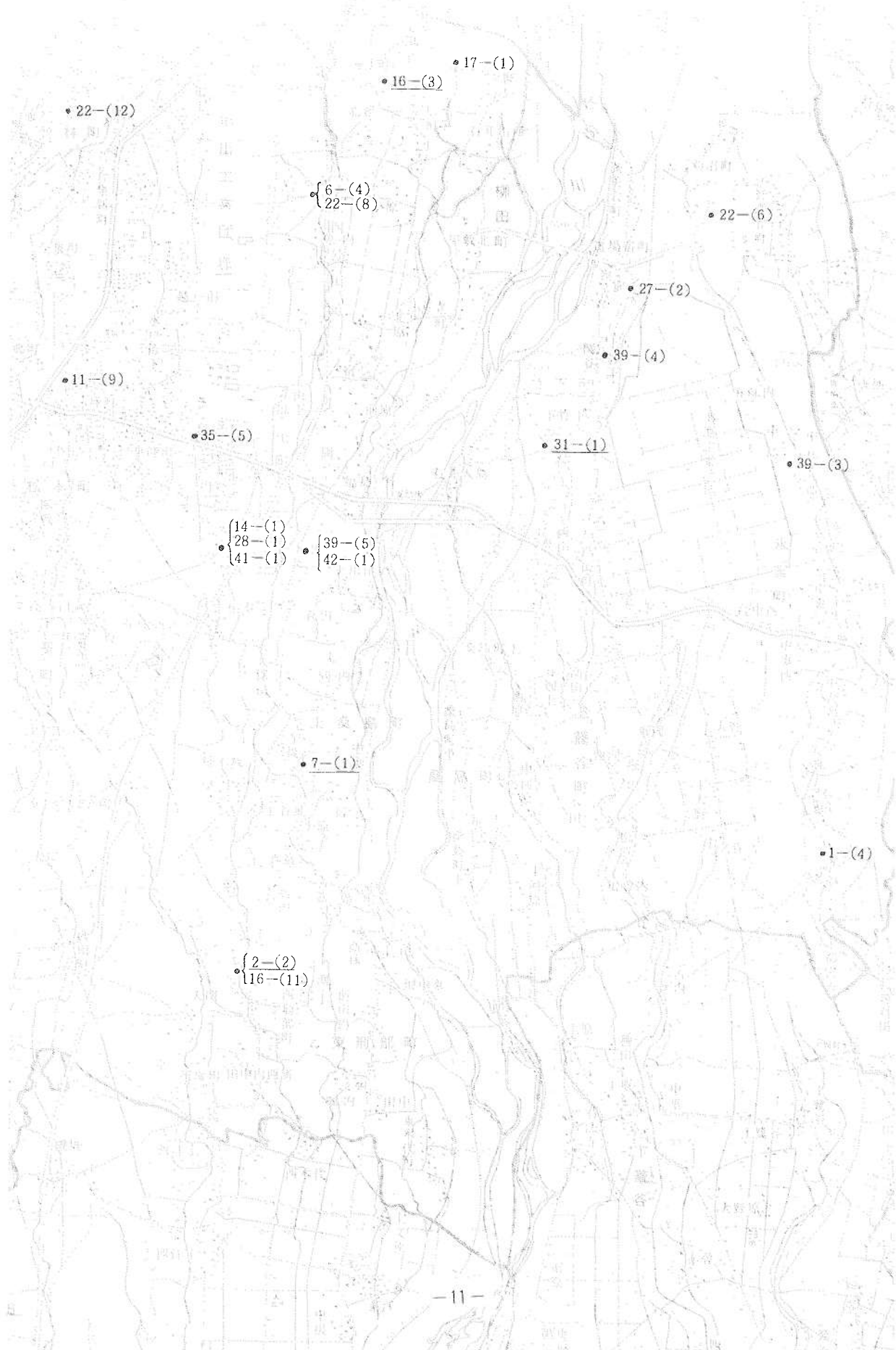
• 11-(4)

• 9-(2)



• 11-(6)





• 17-(1)

• 16-(3)

• 22-(12)

{ 6-(4)  
22-(8)

• 22-(6)

• 27-(2)

• 39-(4)

• 11-(9)

• 35-(5)

• 31-(1)

• 39-(3)

{ 14-(1)  
28-(1)  
41-(1)

• { 39-(5)  
42-(1)

• 7-(1)

• 1-(4)

{ 2-(2)  
16-(11)

# 1. アカシデ (かばのき科)

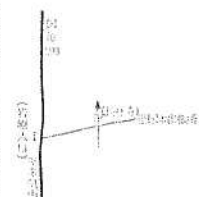
山地や平地にはえる落葉高木で、新芽が紅色であるだけでなく秋に紅葉するのでアカシデと呼ばれ、通称ソネといわれている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	長林寺のアカシデ	岩原町196	仙田 隆彦	25.0	2.0	
(2)	大曾のアカシデ	大曾1-1-16	鈴木 貞良	17.0	1.9	ほか2本
(3)	龍光寺跡のアカシデ	上小池町840	阿部 俊造	16.0	1.8	
(4)	星宮神社のアカシデ	水室町1317	阿久津喜生	16.0	1.6	ほか1本

(1) 長林寺のアカシデ



曹洞宗の名刹、長林寺の本堂裏のアカシデで、寺院の社叢を形成している。



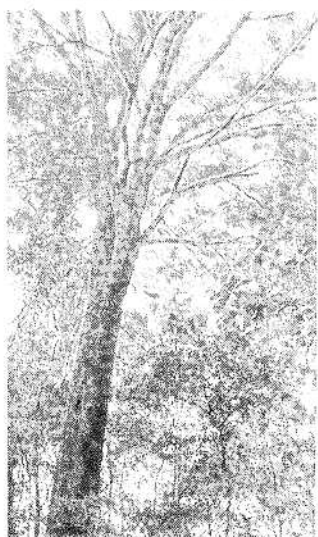
(2) 大曾のアカシデ



八幡山の東側のすそのに位置する鈴木宅の庭のアカシデで、庭全体が自然林の様相をたっている。



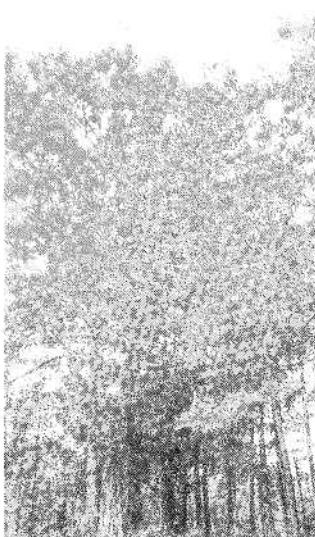
(3) 龍光寺跡のアカシデ



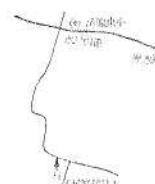
龍光寺廃寺跡にあるアカシデで、現在は山林になっている。



(4) 星宮神社のアカシデ



石造地藏尊を祭ることで知られる星宮神社の本殿裏のアカシデで、非常に樹勢が良い。



## 2. イチョウ (いちよう科)

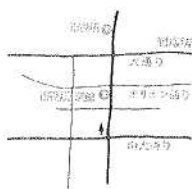
中国原産とされる落葉高木で、樹齡が長く保つので比較的老樹巨木が多い。葉は扇形で、秋になると葉が黄変し美しいだけでなく、雌株は種子(ぎんなん)を結ぶ。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	旭町の大イチョウ	中央1-9-8	市 教 委	33.0	6.2	市指定、樹齡約400年
(2)	成願寺のイチョウ	西荆部町1133	福崎 順雄	30.0	6.0	市指定、樹齡約500年
(3)	本陣跡のイチョウ	伝馬町6-24	上野虎四郎	30.0	4.0	
(4)	光明寺のイチョウ	本町9-18	谷島 忠良	28.0	3.6	
(5)	智賀都神社のイチョウ	徳次郎町2478	外鯨 海夫	40.0	3.4	
(6)	八幡宮のイチョウ	馬田5-1-61	粕谷 安定	25.0	3.4	
(7)	鶴田町の乳イチョウ	鶴田町1234	黒崎 英男	5.0	0.6	珍木

(1) 旭町の大イチョウ (昭32・10・4指定)



(2) 成願寺のイチョウ (昭33・1・24指定)



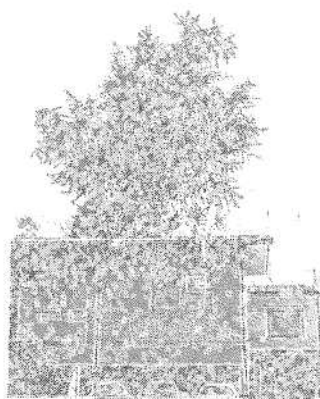
宇都宮城三の丸の北西の土塁上に位置する木で、イチョウとしては、県内最大の太さとおもわれる名木である。



寺院の象徴として成願寺の山門わきにそびえるまれに見る巨樹で、杜銀さにおいては市内のイチョウ随一である。



(3) 本陣跡のイチヨウ



宇都宮城下の本陣(大名の宿泊地)跡の由緒あるイチヨウで、太い枝張りは見事である。



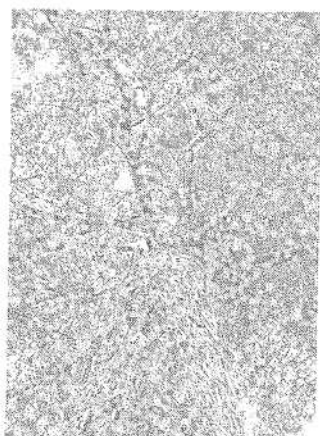
(4) 光明寺のイチヨウ



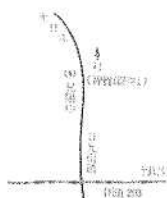
市街地の中心部に位置する光明寺境内のイチヨウで、緑の少ない地域にあって貴重である。



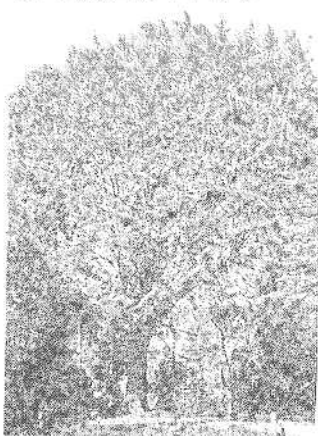
(5) 智賀都神社のイチヨウ



古くは「千勝の森」といわれた智賀都神社の社叢に、ひときわ高くそびえるイチヨウである。



(6) 八幡宮のイチヨウ



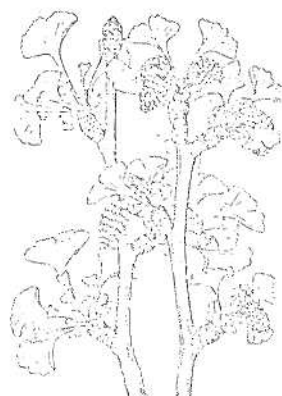
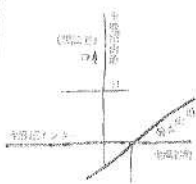
宇都宮城守護のために建立された八幡山東南の「八幡宮」境内のイチヨウである。



(7) 鶴田町の乳イチヨウ



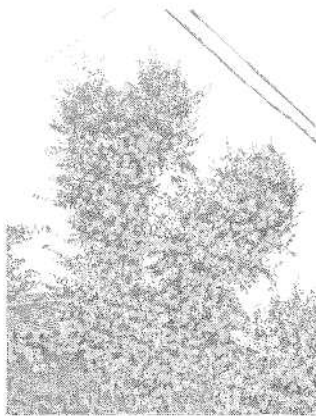
黒崎氏宅、東門脇のイチヨウで、いわゆる乳が異状に発達した珍木である。



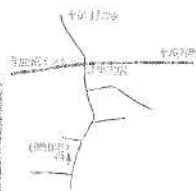
### 3. イヌシデ（かばのき科）

アカシデと同じく、山地や平地にはえる樹木で、芽や新葉に白毛が多いところからシロシデとも呼ばれ、通称ソネといわれている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	砥土町のイヌシデ	砥土町896	岡田 武	6.0	2.2	



岡田宅の庭に植栽されているイヌシデの大木である。



アカシデ



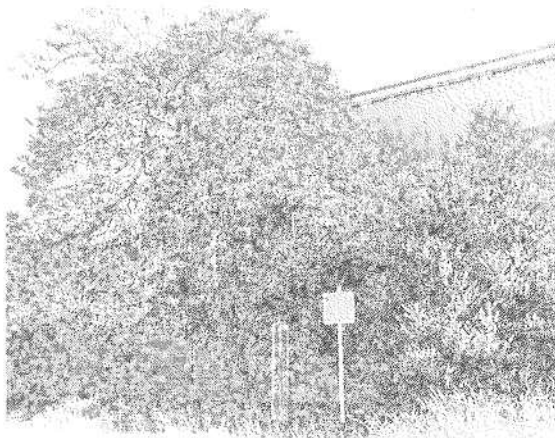
イヌシデ

### 4. イヌツゲ（もちのき科）

庭園に植栽されている例が多いが、本来は山地や湿地にはえている常緑低木で、つげ科のツゲに似ているのでイヌツゲの名がある。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	英巖寺のイヌツゲ	花房本町2	市 教 委	8.5	1.4	市指定、樹齡約300年
(2)	砥土町のイヌツゲ	砥土町231	横山 元一	5.0	2.0	ほか1本
(3)	六本木のイヌツゲ	石那田町164	齊藤 征男	3.0	1.9	
(4)	文化会館のイヌツゲ	明保野町7-66	市 教 委	4.5	1.9	
(5)	下栗町のイヌツゲ	下栗町331-2	宇繩 駒重	5.0	1.8	
(6)	豊郷中央小のイヌツゲ	岡堀町337	市 教 委	5.0	1.5	
(7)	大寛町のイヌツゲ	大寛1-4-26	第一勸業	3.5	1.5	

#### (1) 英巖寺のイヌツゲ（昭47・12・8指定）

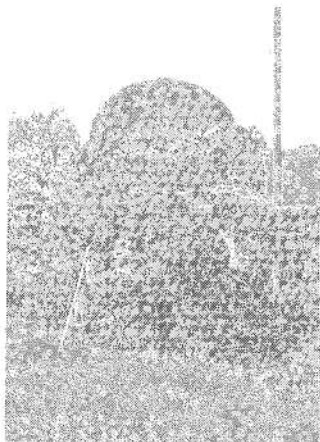


英巖寺は、江戸時代宇都宮城主であった戸田氏の菩提寺であったが成暦の役で焼失し庵寺になってしまった。

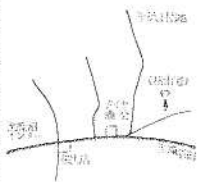
イヌツゲは、この英巖寺の境内に位置しており、かつての寺院の隆盛を物語るものとして貴重な存在といえる。



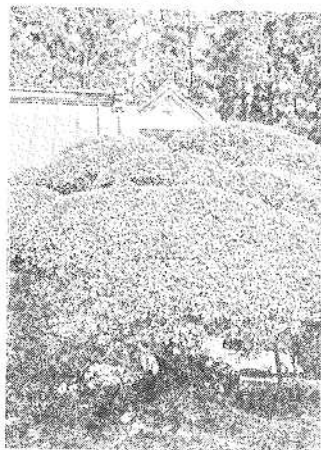
(2) 砥上町のイヌツゲ



横山宅の門の両側に植栽されたイヌツゲで、二本ともよくバランスがとれている。



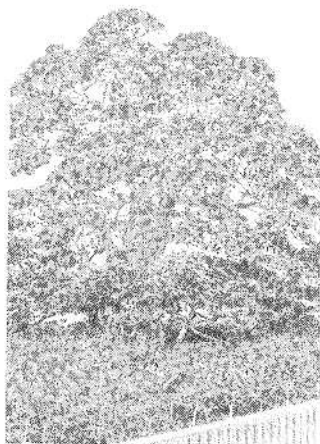
(3) 六本木のイヌツゲ



篠井地区では有名なイヌツゲで、特に枝張りは立派である。



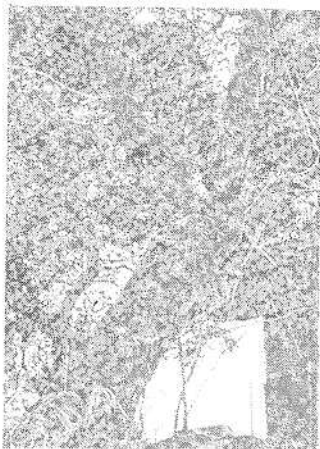
(4) 文化会館のイヌツゲ



文化会館正面のイヌツゲで、植栽されたものであるが、幹枝は比較的自然的なままである。



(5) 下栗町のイヌツゲ



下栗の田土神様を祭る石祠の裏のイヌツゲで、自然の姿をよく保っている。



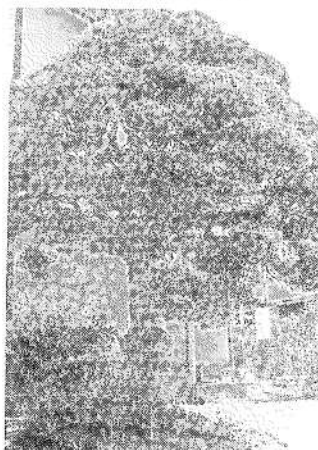
(6) 豊郷中央小のイヌツゲ



学校の正面玄関前のイヌツゲで、枝は見事な玉造りになっている。



(7) 大寛町のイヌツゲ



第一勧業銀行家族奈の玄関わきのイヌツゲで、古木である。





## 5. カキ (かきのき科)

日本の西南部の山中に自生しているが、広く栽培されている落葉高木で、果実は多肉であり食用とする。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	新里町のカキ	新里町乙911	松本 瑞翁	15.0	3.0	
(2)	飯田町のカキ	飯田町266	安納 均	13.0	2.2	ほか1本
(3)	幕田町のカキ	幕田町169	坂本マツイ	5.0		
(4)	瓦谷町のカキ	瓦谷町96	水沼 龍五	13.0	1.6	

(1) 新里町のカキ



松本宅の庭先に  
植栽されているカ  
キで、天を突く勢  
いがある。



(2) 飯田町のカキ



安納宅の前  
庭のカキで、  
枝ぶりが見事  
である。



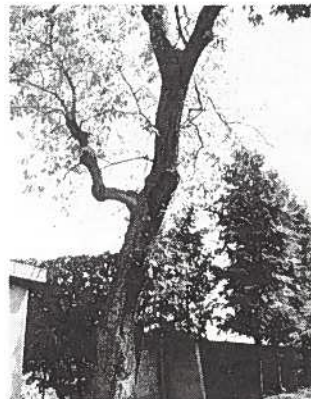
(3) 幕田町のカキ



坂本宅の庭に植  
栽されている曲幹  
のカキである。



(4) 瓦谷町のカキ



水沼宅の母屋裏  
のカキで、古木で  
ある。

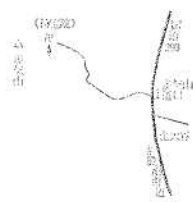
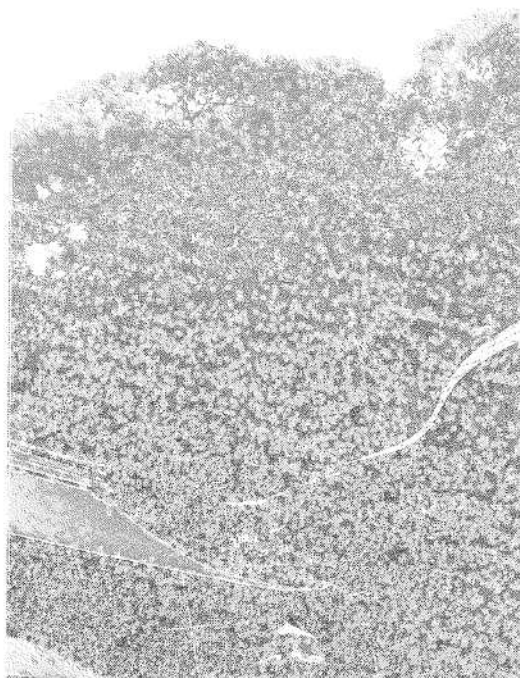


## 6. カシ類（ぶな科）

山地に自生する常緑高木で、中部から関東地方にかけては人家のまわりに植栽されている。シラカシは材が白色、ウラジロガシは葉の裏が白色であるのによる。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	持宝院社叢のカシ	田下町564	伊東 永峰	20.0	3.0	市指定、ウラジロガシ
(2)	下徳次郎のカシ	徳次郎町241	大島 章	20.0	5.8	ウラジロガシ
(3)	土欠町のカシ	土欠町1032	松本 一	25.0	3.1	シラカシ
(4)	平出神社のカシ	平出町3848	江部 修一	29.0	2.8	シラカシ
(5)	細谷町のカシ	細谷町602	福地 堯重	22.0	2.5	シラカシ
(6)	延命院のカシ	泉町4-30	小針 孝哉	11.0	2.3	シラカシ

(1) 持宝院社叢のカシ（昭32・1・11指定）

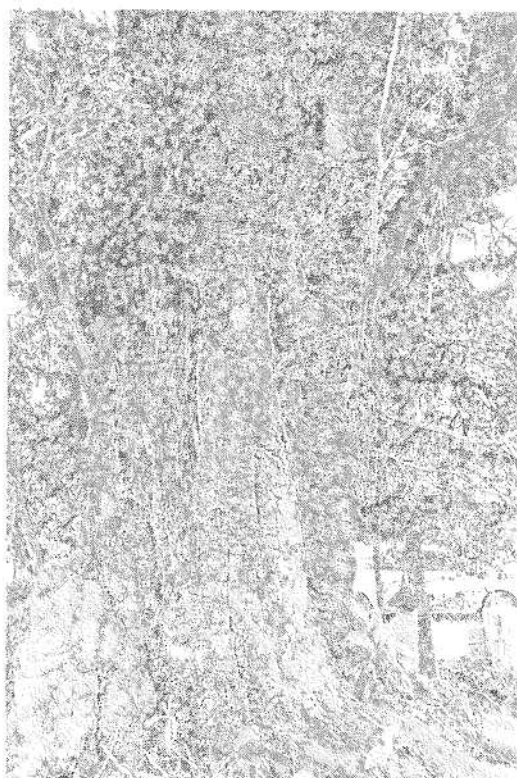


多気山持宝院の社叢内のカシである。

多気山の社叢は、原始林のおもかげを今日にとどめているだけでなく、

我国の暖帯林の北縁に位置する樹林として学術上も非常に貴重である。

(2) 下徳次郎のカシ



目通り周囲 5.8m の巨木で、カシとしては県内最大と思われる。



シラカシ

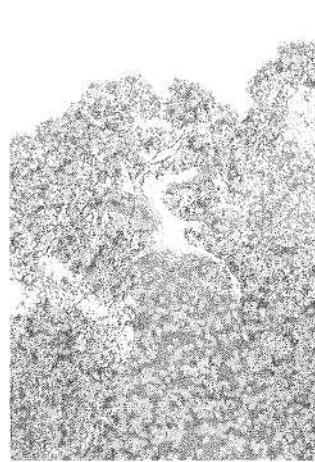
(3) 上欠町のカシ



松本宅の母屋西側のカシで、庭木として植栽されたものと思われる。



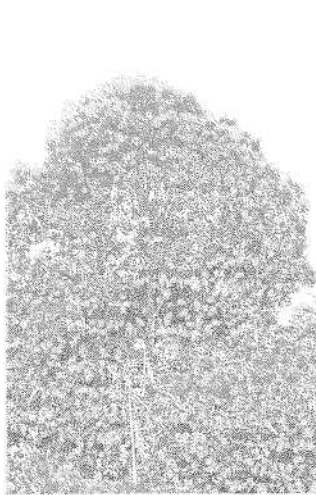
(4) 平出神社のカシ



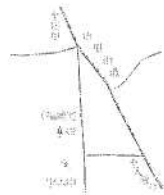
平出神社（雷電神社）本殿東側にそびえるカシで、樹高は市内随一と思われる。



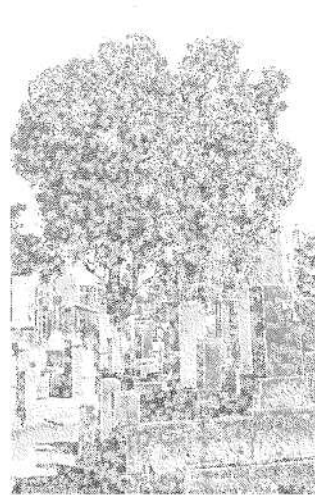
(5) 細谷町のカシ



福地宅の西側に植栽されているカシで、樹形が自然の姿を保っている。



(6) 延命院のカシ



延命院の東南葦地内のカシで、延命院の寺歴の古さを物語るものといえる。



7. カヤ (いちい科)

山地に自生しているが、庭木としても用いられている常緑高木で、材は基盤、髯棋盤として珍重され、果実は食用あるいは油として利用される。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	胸	備 考
(1)	金剛定寺のカヤ	上桑島町1041	半沢 照晋	25.0	3.0	市指定、樹齢約400年
(2)	光琳寺のカヤ	西原1-4-12	井上 榮雄	15.0	3.9	
(3)	幕田町公民館のカヤ	幕田町1083	幕田町自治会	20.0	3.3	
(4)	横山町のカヤ	横山町580	福田 智明	20.0	3.0	
(5)	幕田町のカヤ	幕田町169	坂本マツイ	20.0	3.0	
(6)	高麗神社のカヤ	大綱町263	外鯨 海天	30.0	2.8	



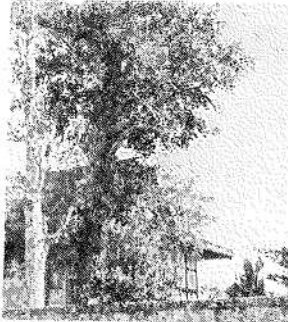
こんごうじょうじ  
 (1) 金剛定寺のカヤ (昭33・1・24指定)



金剛定寺山門脇のカヤで、広大な樹冠が均整のとれた見事なものであり、巨大な盆栽を見るようである。



(2) 光琳寺のカヤ

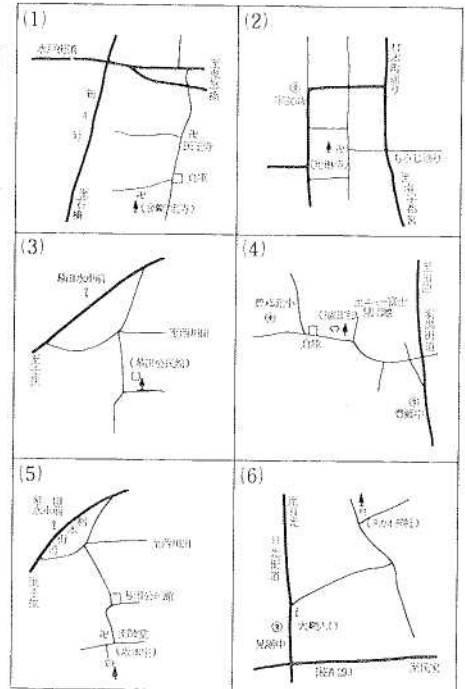


光琳寺本堂裏のカヤで、寺院の古い歴史を物語っている古木である。

(3) 幕田町公民館のカヤ



公民館の庭のすみに植栽されたと思われるカヤである。

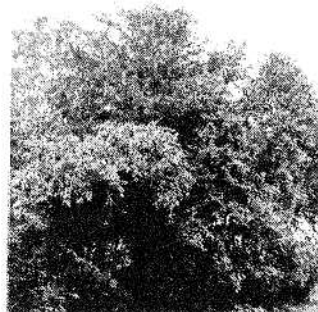


(4) 横山町のカヤ



福田宅の母屋裏のカヤで、下枝が伐採されている。

(5) 幕田町のカヤ



坂本宅の庭内のカヤで、旧家であることを立証している。

たかな  
 (6) 高麗神社のカヤ



高麗神社境内のカヤで、樹冠等比較的自然である。

## 8. カリン (ばら科)

中国原産の落葉高木であるが、現在は庭木としてひろく植栽されている樹木で、果実は薬用とするが、生のままでは果肉がかたいだけでなく酸味が強く食べられない。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	上戸祭町のカリン	上戸祭町495-1	中村 茂	10.0	1.4	
(2)	鶴田町のカリン	鶴田町227-3	中村 昇	15.0	0.9	

### (1) 上戸祭町のカリン



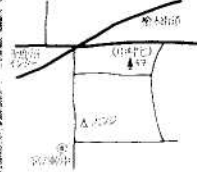
中村宅庭園内のカリンで、古木を植栽したもの。



### (2) 鶴田町のカリン



中村宅の西の石倉裏に植栽されたカリンである。

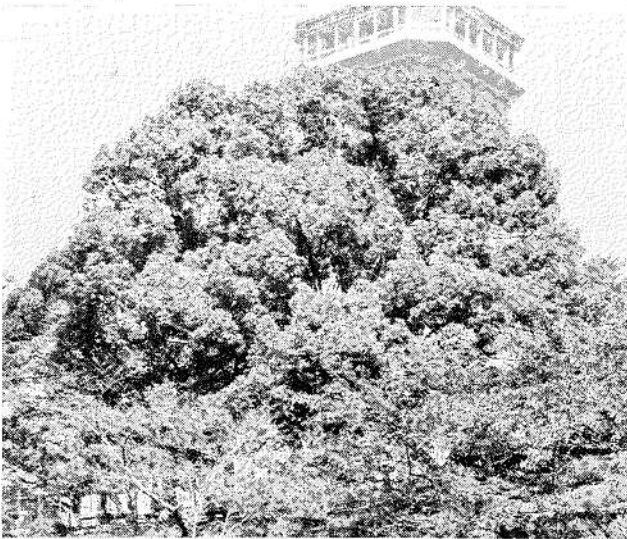


## 9. クスノキ (くすのき科)

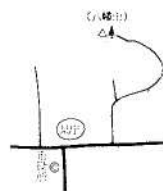
関東以西の暖地に自生する常緑高木で、芳香があるので以前は「樟腦」の原料とされた。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	八幡山のクスノキ	塙田5丁目	市 教 委	19.5	株立	市指定、樹齢約300年
(2)	東谷町のクスノキ	東谷町365-2	福田茂兵衛	20.0	3.9	
(3)	新里町のクスノキ	新里町丙1181	金田 弘忠	20.0	3.0	

### (1) 八幡山のクスノキ (昭47・12・8指定)



八幡山公園の屋根上のクスノキで、根元から5枝に分かれており、古木ながら樹勢はおう盛である。

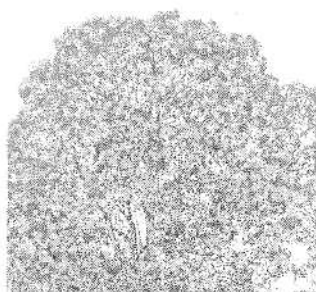


カリン

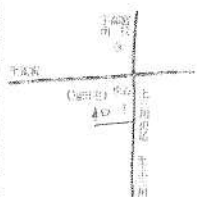


クスノキ

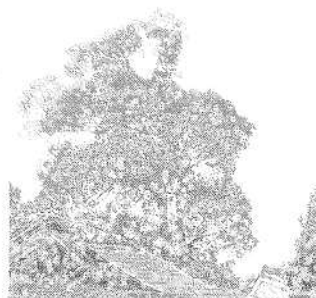
(2) 東谷町のクスノキ



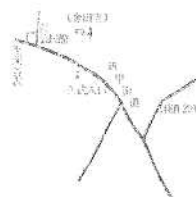
福田宅の母屋西  
側にそびえるクス  
ノキで巨木である。



(3) 新里町のクスノキ



金田宅の母屋、  
裏山のクスノキの  
大木である。



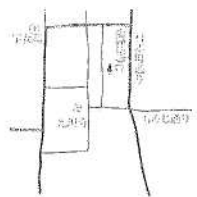
10. クスギ (スナ科)

山林に多い落葉高木で、かつてはこの木から良質の木炭をつくったので、多く植林された。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	大寛町のクスギ	大寛2-2-26	河津 節	18.0	2.4	ほか1本



市街地にあつて  
は稀にみるクスギ  
の大木である。



クスギ



ケヤキ

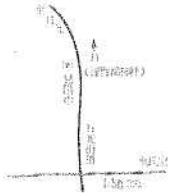
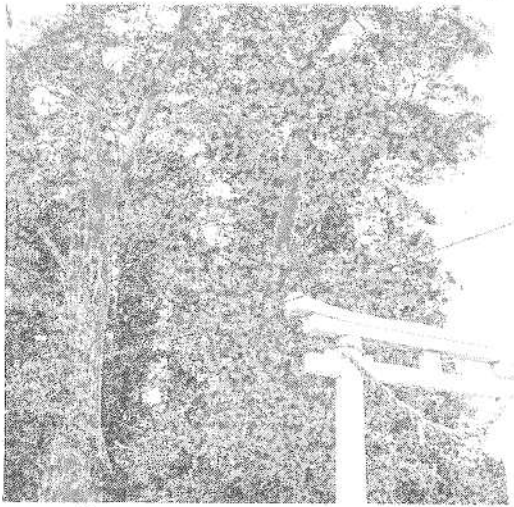
11. ケヤキ (にれ科)

山地に自生し、人家の周囲に植えられる落葉高木で、大木の代表とされている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	智賀都神社のケヤキ	徳次郎町2478	外鯨 海夫	40.0	8.0	2本県指定、樹齢約700年
(2)	南新町のケヤキ	新町2-1-7	自治会長	40.0	6.6	
(3)	上徳次郎のケヤキ	徳次郎町2718	岡本 弘一	30.0	7.5	
(4)	八幡神社のケヤキ	針が谷町880	刀川 歳一	30.0	5.4	
(5)	上矢町のケヤキ	上矢町1082	松本 一	38.0	5.1	
(6)	茂原町のケヤキ	茂原町878	鈴木茂兵衛	25.0	5.1	
(7)	鶴田町のケヤキ	鶴田町227-3	中村 昇	25.0	4.4	
(8)	六道のケヤキ	六道町6-11	井上 栄雄	18.0	4.4	
(9)	峰町のケヤキ	峰町117	近藤 堅平	20.0	4.1	
(10)	砥上神社のケヤキ	下砥上町487	楯 三郎	20.0	相生	山桜との相生

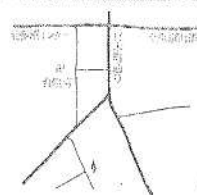
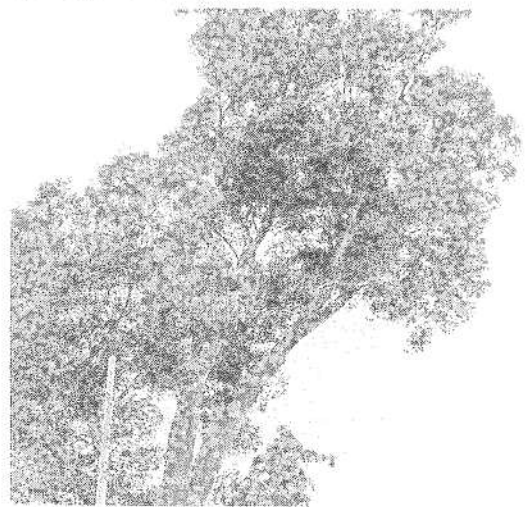


(1) 智賀都神社のケヤキ(昭29・9・7指定)



智賀都神社参道入口の鳥居の両わきに植栽されたケヤキで、2本とも同規模であり神社の古さを示す巨樹である。

(2) 南新町のケヤキ



宇都宮城下の入口にあたる南新町にそびえるケヤキで、昔は旅人の目印になったと思われる大木である。

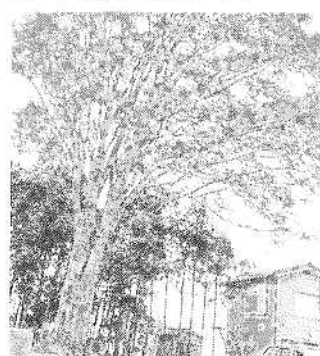
(3) 上徳次郎のケヤキ



岡本宅の庭の西側にそびえるケヤキである。



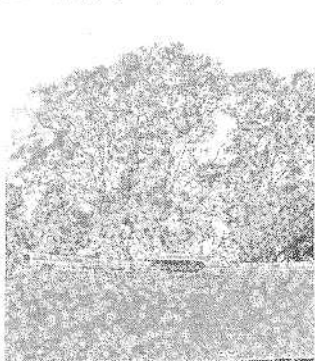
(4) 八幡神社のケヤキ



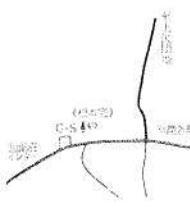
八幡神社境内のケヤキで、御神木である。



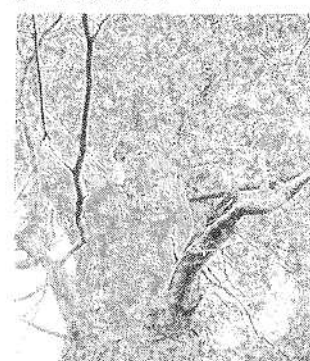
(5) 上欠町のケヤキ



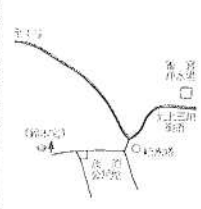
松本宅、母屋裏のケヤキで、大木である。



(6) 茂原町のケヤキ



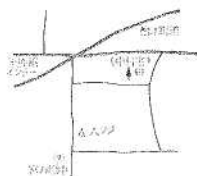
鈴木宅、母屋裏のケヤキで、古木である。



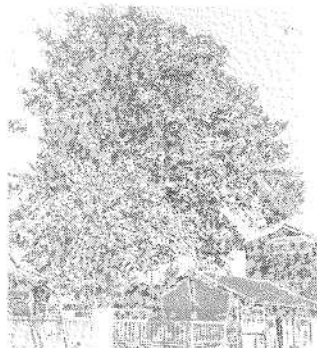
(7) 鶴田町のケヤキ



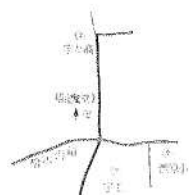
中村宅の屋敷林中のケヤキで、大木である。



(8) 六道のケヤキ



六道の間廣堂内のケヤキであるが枝が切られている。



(9) 峰町のケヤキ



峰町の市街地にひときわそびえるケヤキである。



(10) 砥上神社のケヤキ



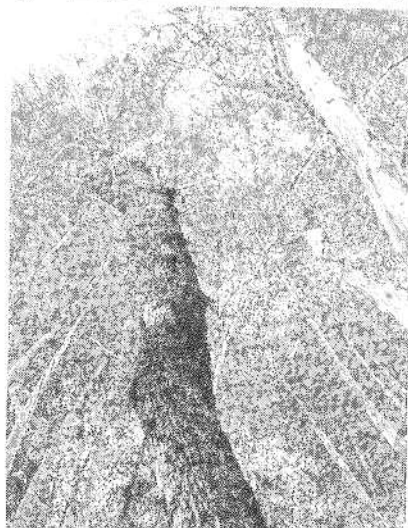
砥上神社東側の山桜との相生になっている珍木。



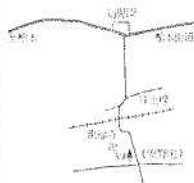
12. ケンボナシ (くろうめもどき科)

浅い山や野にはえる落葉高木で、冬の初め甘みがある小さな肉質を伴った実が地上に落ちる。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	下砥上町のケンボナシ	下砥上町744	安野 栄一	20.0	1.0	



安野宅の屋敷内の東、竹林の中にあるケンボナシで、この樹齢としては大木である。



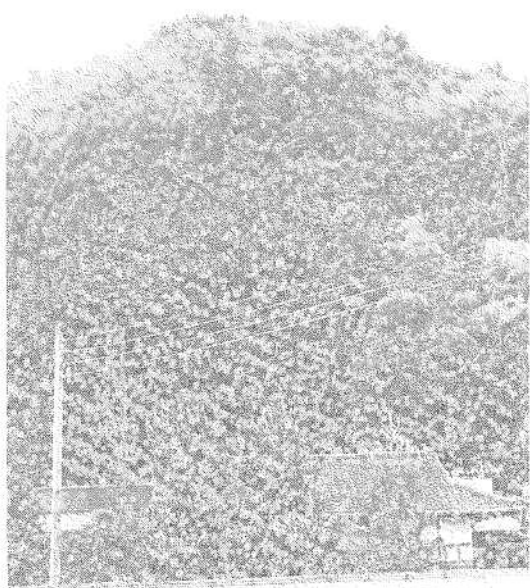
### 13. コウヤマキ (こうやまき科)

我が国特産の常緑高木で、西日本の山地に自生しているが、特に和歌山県の高野山に多いことからこの名がつけられた。

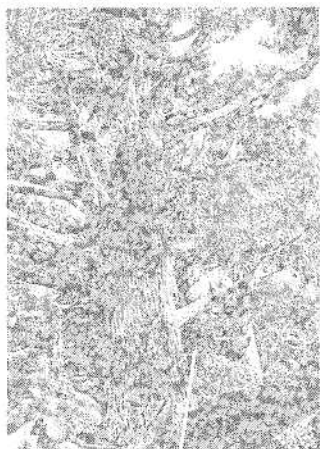
No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	篠井のコウヤマキ	篠井町362	斉藤 周吉	30.0	3.6	市指定、樹齢約300年
(2)	中鶴田のコウヤマキ	鶴田町241	小松 三男	17.0	3.7	
(3)	雀宮のコウヤマキ	雀宮町3-378	大塚 一	15.0	2.6	

#### (1) 篠井のコウヤマキ (昭35・1・28指定)

コウヤマキは、世界的に優良な造園木として有名であるが、この木も植栽されたものでありまれにみる巨樹である。



#### (2) 中鶴田のコウヤマキ

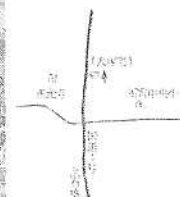
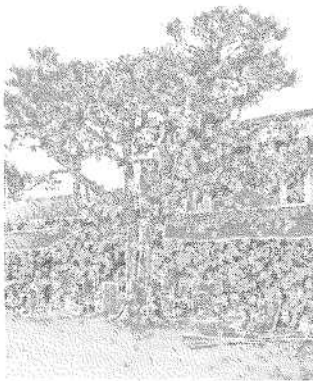


小松宅の庭内に植栽されたコウヤマキの大木である。



#### (3) 雀宮のコウヤマキ

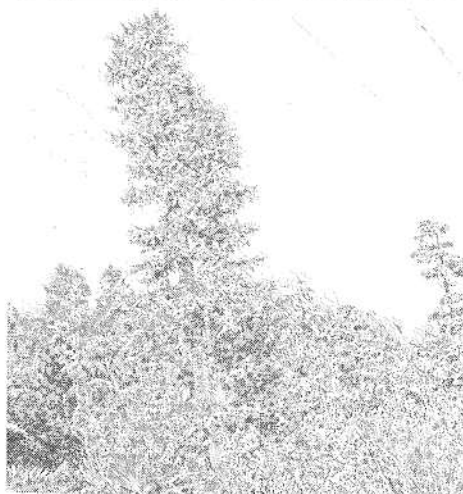
大塚宅の入口北側のコウヤマキで、古木である。



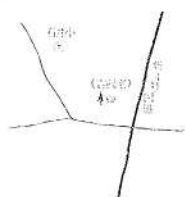
#### 14. コウヨウザン (すぎ科)

中国原産で江戸時代に日本に広まってきた常緑高木で、スギに似ていて葉が広いのでこの名が付けられた。

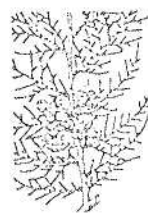
No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	石井町のコウヨウザン	石井町1274	吉沢 久夫	14.5	1.6	



吉沢宅の庭内、  
母屋の西側に植  
栽されているコ  
ウヨウザンであ  
る。



コウヨウザン



コノテガシワ

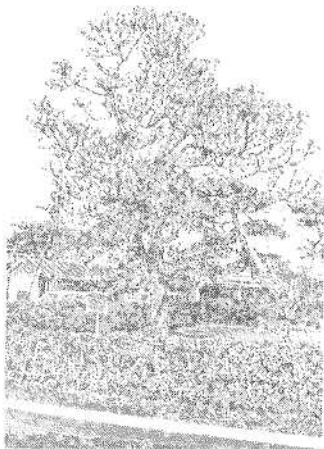
#### 15. コノテガシワ (ひのき科)

中国の北及び西部原産の常緑低木で、江戸時代に渡来し一般的になったもので、葉の様子から「兎ノ手箱」の日本名がついている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	国立病院のコノテガシワ	中戸祭1-10-10	国立病院	7.1	1.3	
(2)	新里町のコノテガシワ	新里町511	高橋 省吾	6.5	1.0	

(1) 国立病院のコノテガシワ

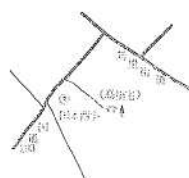
(2) 新里町のコノテガシワ



古くからこの木  
は宝の木と呼ば  
れており、「宝木」  
の地名のおこり  
となった名木とい  
われている。



高橋宅の入口、  
堀ぎわのコノテ  
ガシワで、古木  
である。



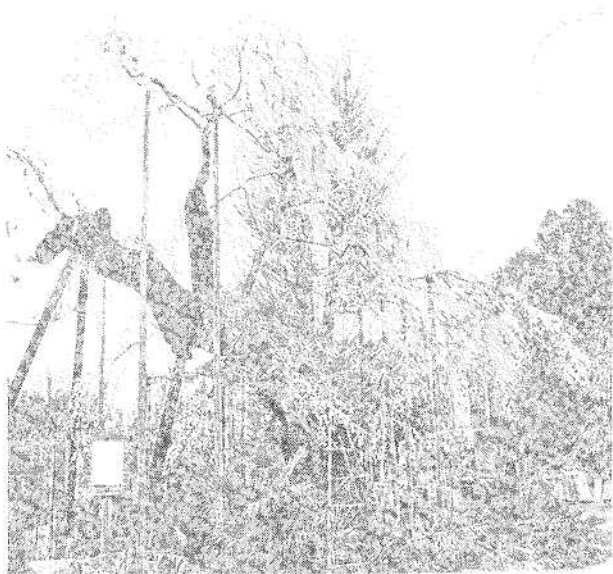


## 16. サクラ類（ばら科）

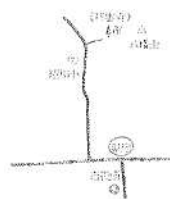
日本を代表する樹木で、花は「国花」となっており、多くの種類があるが山桜を含めて各地に植栽されている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	祥雲寺のシダレザクラ	東戸祭1-1-16	安藤 祐之	11.0	5.0	県指定、樹齢約300年
(2)	城山のシダレザクラ	古賀志町583	市 教 委	8.0	4.7	市指定、樹齢約400年
(3)	広琳寺のシダレザクラ	平出町1673	松本 尊弘	11.5	2.0	市指定、樹齢約200年
(4)	石那田のエドヒガン	石那田町1942	村田 義次	19.0	4.0	市指定、樹齢約550年
(5)	持宝院のヤマザクラ	田下町564	伊東 永峰	20.0	4.0	市指定
(6)	西原町のヤマザクラ	西原町142	中村 欣平	20.0	3.8	
(7)	日枝神社のヤマザクラ	福岡町1333	大浦 茂教	19.0	3.7	
(8)	国立病院のシダレザクラ	中戸祭1-10-10	国立病 院	8.6	3.5	
(9)	宇短大のソメイヨシノ	西原町3535	須賀 友正	10.6	3.1	
(10)	鶴田町のシダレザクラ	鶴田町1986	前田 一雄	9.0	3.0	
(11)	成願寺のシダレザクラ	西荆部町1133	福崎 順雄	8.5	2.8	
(12)	慈光寺のヒガンザクラ	塙田1-3-3	吉田 真祥	20.0	2.6	
(13)	雷神社のヤマザクラ	塙田1-9-5	中沢万一郎	20.5	2.5	
(14)	江曾島東のシダレザクラ	江曾島町1210	坂本 実	13.6	2.5	
(15)	江曾島西のシダレザクラ	江曾島町823	飯塚 国一	13.6	2.4	
(16)	上戸祭町のシダレザクラ	上戸祭町336	佐藤 馨	10.0	2.1	
(17)	中徳次郎のシダレザクラ	徳次郎町2236	中田 孝一	10.6	1.9	

### (1) 祥雲寺のシダレザクラ（昭32・8・30指定）

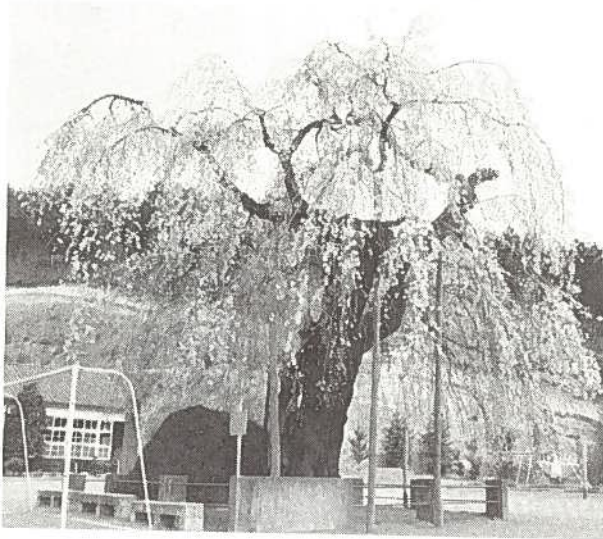


祥雲寺の旧本堂跡のシダレザクラで、旧本堂の再建を記念して植樹されたものと伝えられている。



シダレザクラ

(2) 城山のシダレザクラ (昭34・3・10指定)



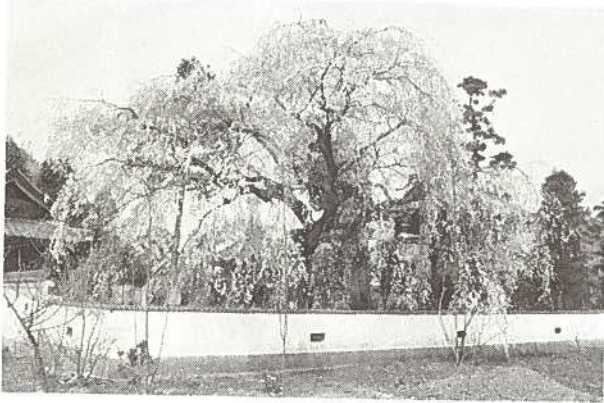
城山西小の校庭内にあるこのサクラは「孝子桜」と呼ばれ、次のような伝説がある。

「昔、古賀志に住む孝行息子が、死ぬ前にもう一度桜の花を見たいという病父の願いをかなえてやりたいと、近くの大日様をお願いしたところ、孝心が天に通



じ季節はずれであったが桜の花が満開となり、父子とも大いに喜んだ。」

(3) 広琳寺のシダレザクラ (昭48・3・20指定)



広琳寺境内のシダレザクラで、樹冠が傘形で盆栽のような見事な枝ぶりであり、花をつけた時の壮観さは市内のサクラの中で随一といえる。



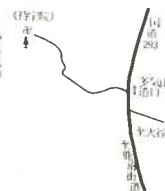
(4) 石那田のエドヒガン (昭42・3・25指定) (5) 持宝院のヤマザクラ (昭32・1・11指定)



石那田の共同墓地内にそびえるサクラで、指定の桜のうち樹高が市内随一の巨樹である。

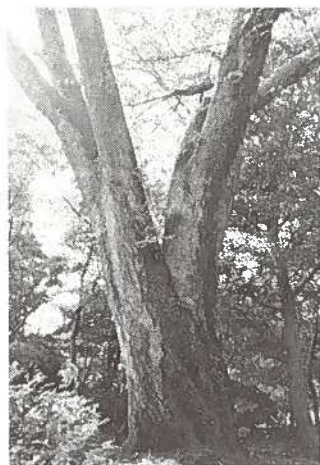


多気山社叢内に含まれる持宝院参道わきの一段高い所に自生している見事なヤマザクラである。





(6) 西原町のヤマザクラ



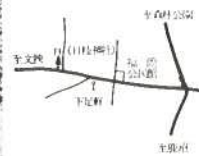
グランドホテル  
庭園内のヤマザクラで、途中から双幹になっている。



(7) 日枝神社のヤマザクラ



日枝神社参道入口、鳥居わきのヤマザクラの大木である。



(8) 国立病院のシダレザクラ



国立栃木病院入口北側のシダレザクラで、古木である。



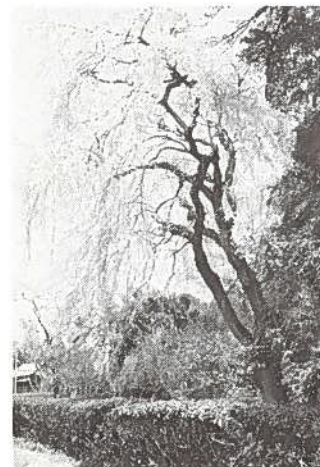
(9) 宇短大のソメイヨシノ



宇都宮短期大学附属高校玄関わきのサクラで、旧軍道のサクラの名残である。



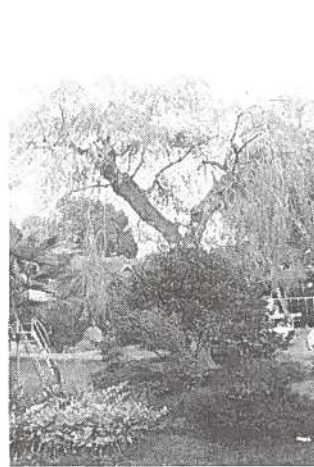
(10) 鶴田町のシダレザクラ



前田宅の庭先のシダレザクラで、古木である。



(11) 成願寺のシダレザクラ



成願寺本堂西側のシダレザクラで、古木として風格がある。



(12) 慈光寺のヒガンザクラ



慈光寺の参道の階段にくいこむように立つサクラの大木である。



(13) 雷神社のヤマザクラ



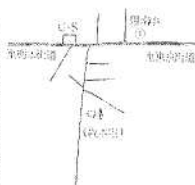
雷神社の参道わきのヤマザクラで、植栽によるものかもしれない。



(14) 江曾島東のシダレザクラ



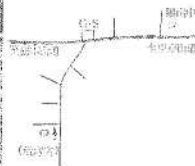
坂本宅東側の石倉裏のシダレザクラで、樹勢がおう盛である。



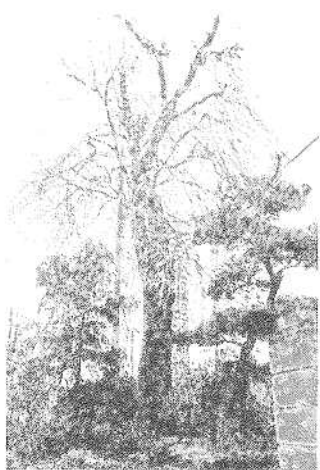
(15) 江曾島西のシダレザクラ



飯塚宅の庭先のシダレザクラで、風情のある古木である。



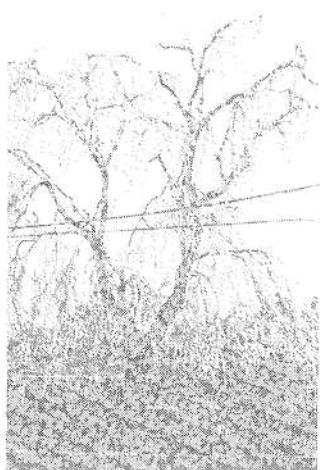
(16) 上戸祭のシダレザクラ



佐藤宅の庭内、日光街道に面して立つシダレザクラの古木である。



(17) 中徳次郎のシダレザクラ



中田宅の庭内のシダレザクラの古木で、日光街道に面している。





### 17. サイカチ（まめ科）

各地の山野及び川原にはえ、人家にも植栽されている落葉高木で、新葉は食用となり豆果は石鹼が無かった時代に物を洗うのに用いた。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	平出町のサイカチ	平出町2088	桑久保 守	20.0	2.7	ほか1本



桑久保宅の門の両側のサイカチで、堂々たる巨樹である。



サイカチ



サツキツツジ

### 18. サツキ（つつじ科）

常緑低木で一般的には人家で栽培されるが、関東以西では野生している場所もある。サツキは皷で、陰曆の五月に花が咲くからである。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	戸祭元町のサツキ	戸祭元町2432	塚田 成一	2.3	2.0	大歪
(2)	新里町のサツキ	新里町丁838	半田 好幸	4.0	0.9	大歪

#### (1) 戸祭元町のサツキ



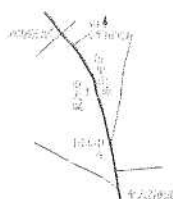
塚田宅の庭に植栽されているサツキで古木である。



#### (2) 新里町のサツキ



半田宅の母屋東側の古い庭に植栽されているサツキである。

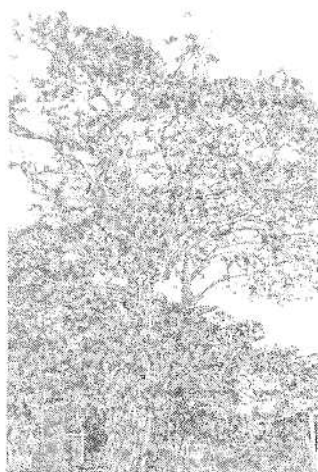


## 19. サルスベリ (みそはぎ科)

中国原産の落葉高木であり通常観賞用として墓所、庭園に植栽されており、木はだがつるつるしてサルもすべり落ちるということから樹名が付けられた。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	岩曾町のサルスベリ	岩曾町172	共同墓地	16.0	3.0	ほか2本
(2)	上矢町のサルスベリ	上矢町998	高野美津恵	7.0	2.5	
(3)	田下町のサルスベリ	田下町142	共同墓地	7.5	2.0	
(4)	英巖寺のサルスベリ	花房本町2	市 教 委	5.0	1.8	

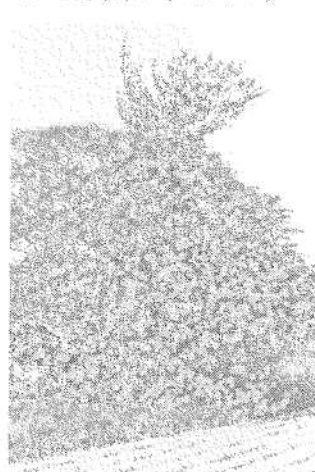
(1) 岩曾町のサルスベリ



岩曾町の羽黒街道沿いの共同墓地内のサルスベリで、3本とも大木である。



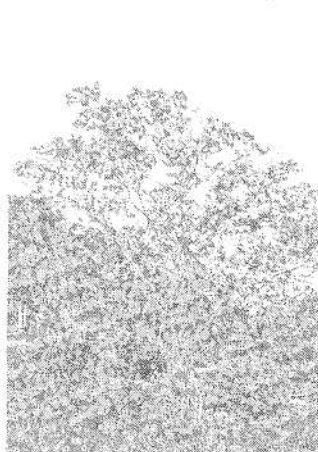
(2) 上矢町のサルスベリ



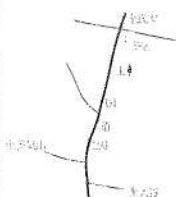
上矢町の高速度路取付道の南側の水田の中のサルスベリで古木である。



(3) 田下町のサルスベリ



田下町の国道293号線西側の墓地内のサルスベリである。



(4) 英巖寺のサルスベリ



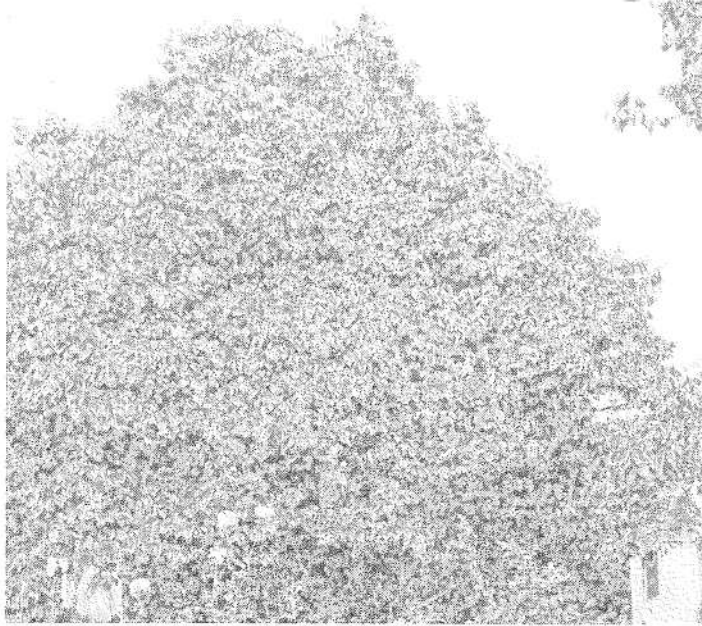
英巖寺の境内跡に、イヌツゲと並んで植栽されたサルスベリの古木である。



20. サンシュユ (みずき科)

中国及び朝鮮から伝えられ薬用植物として栽培されたが、今では一般に花木として植えられている落葉高木で、春先に黄色い花が咲く。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	大曾のサンシュユ	大曾4-5-16	鈴木 一久	6.5	1.0	市指定、樹齢約200年



(昭53・9・29指定)

鈴木宅の庭のサンシュユの古木であるが、サンシュユが日本に入ってきたのは享保年間といわれているので、このサンシュユは、日本に現存するものとしては最古に属すると思われる。



21. シナノキ (しなのき科)

日本特産の山地にはえる落葉高木で大木になり、樹皮の繊維質が強いので利用される。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	上矢町のシナノキ	上矢町491	田代 元仁	25.0	4.3	



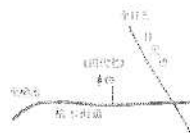
田代宅の母屋裏の屋敷林の中でひときはそびえる大木である。



サンシュユ



シナノキ



## 22. スギ（すぎ科）

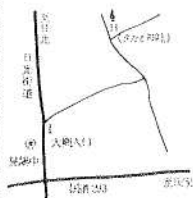
日本特産で、全国各地に野生が見られるが、広く植林されている常緑高木で、幹が直立して高くそびえ大木となるので材の用途が多い。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	高麗神社のスギ	大網町263	外鯨 海夫	35.0	5.6	ほか1本
(2)	中篠井のスギ	篠井町835	阿久津 祐	30.0	5.4	
(3)	古賀志町のスギ	古賀志町2727	北条文次郎	40.0	4.5	ほか多数
(4)	下荒針北のスギ	下荒針町2452	石川 千里	40.0	4.5	ほか多数
(5)	下徳次郎のスギ	徳次郎町118	金田 守弘	40.0	4.1	ほか多数
(6)	野高谷町のスギ	野高谷町912	阿久津貞義	30.0	4.0	ほか多数
(7)	西根のスギ	徳次郎町1181	池田 瑞穂	30.0	3.9	
(8)	平出神社のスギ	平出町3848	江部 修一	21.0	3.9	
(9)	砥上町のスギ	砥上町896	岡田 武	32.0	3.8	
(10)	下荒針南のスギ	下荒針町3411	阿部万四郎	36.0	3.8	ほか多数
(11)	智賀都神社のスギ	徳次郎町2478	外鯨 海夫	40.0	3.7	ほか多数
(12)	白山神社のスギ	竹林町455	葭田 孝	30.0	2.9	ほか1本

たかお  
(1) 高麗神社のスギ



高麗神社入口の鳥居両わきのスギで、神社におもむきを加えている。



(2) 中篠井のスギ



阿久津宅裏庭のスギで、周囲を圧倒する巨樹である。

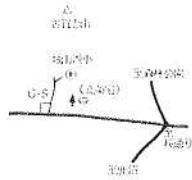




(3) 古賀志町のスギ



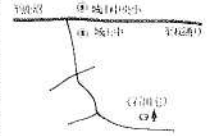
北条宅の屋敷林のスギで、大木が多数含まれている。



(4) 下荒針北のスギ



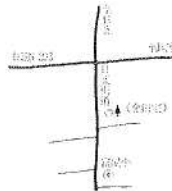
石川宅の屋敷林を形成しているスギの大木である。



(5) 下徳次郎のスギ



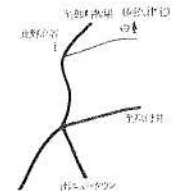
金田宅の裏のスギの大木による林である。



(6) 野高谷町のスギ



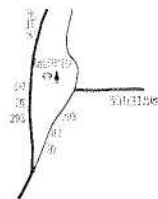
阿久津宅の北側の林で、スギの大木が数多くはえている。



(7) 西根のスギ



池田宅、母屋裏のスギの大木である。



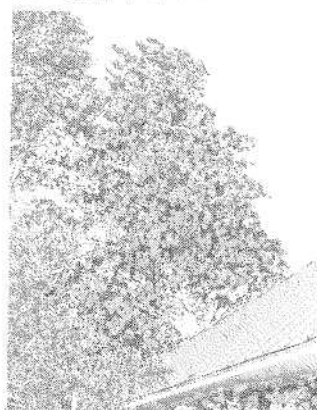
(8) 平出神社のスギ



平出神社参道わきのスギの古木で、「大老杉」と呼ばれている。



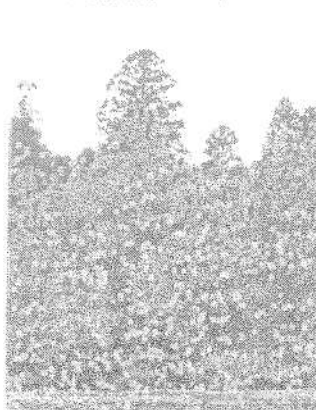
(9) 砥土町のスギ



岡田宅の母屋裏にそびえるスギの大木である。



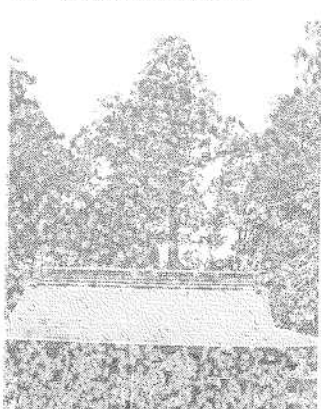
(10) 下荒針南のスギ



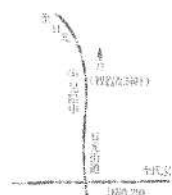
阿部宅の屋根敷林を形成しているスギの大木である。



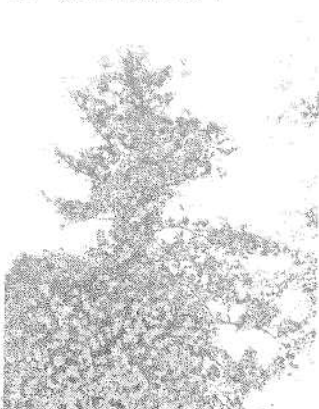
(11) 智賀都神社のスギ



智賀都神社本殿裏のスギの老木である。



(12) 白山神社のスギ



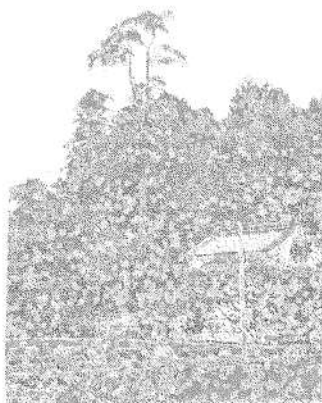
白山神社の社叢の中のスギで、古木である。



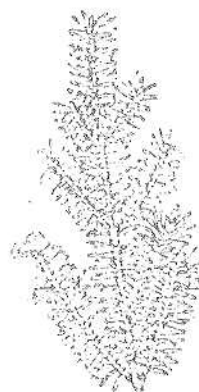
### 23. ツガ (まつ科)

元来は、中部以南の山地に自生する常緑高木で、樹皮からはタンニンを探る。

No.	名称	所在地	所有(管理)者	高	周	備考
(1)	大谷町のツガ	大谷町1110	渡辺 俊	26.0	2.5	



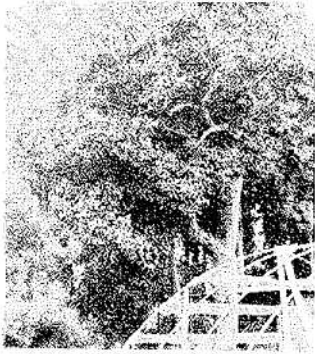
渡辺宅の庭内のツガで、天を突くようにそびえている。



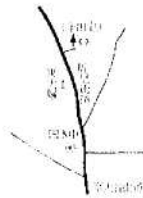
## 24. ツバキ (つばき科)

本州から九州の海岸近くの山地にはえる常緑高木で、この種子からとれるツバキ油は有名である。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	新里町のツバキ	新里町丁1380	半田 勝	7.0	1.5	



半田宅の庭内西側に  
植栽されたツバキの古木である。



ツバキ



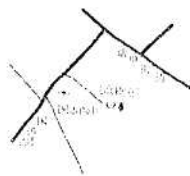
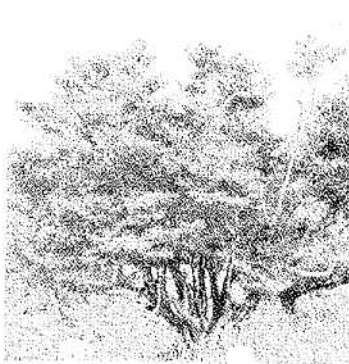
ドウダンツツジ

## 25. ドウダンツツジ (つつじ科)

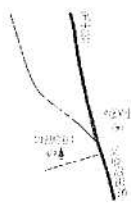
伊豆半島以西の山地にまれに自生している落葉低木であるが、庭園に植えられることが多く、特に生垣によく用いられる。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	新里町のドウダンツツジ	新里町丁511	高橋 省吾	3.0	1.9	
(2)	下荒針町のドウダンツツジ	下荒針町3431	野尻 長雄	3.9	1.0	
(3)	砥土町のドウダンツツジ	砥土町619	鈴木 亀一	2.5	0.9	

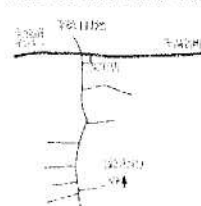
(1) 新里町のドウダンツツジ (2) 下荒針町のドウダンツツジ (3) 砥土町のドウダンツツジ



高橋宅の入口の七手上のドウダンである。



野尻宅の母屋東の庭園内のドウダンである。



鈴木宅の庭内中央のドウダンである。

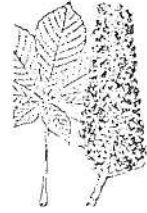
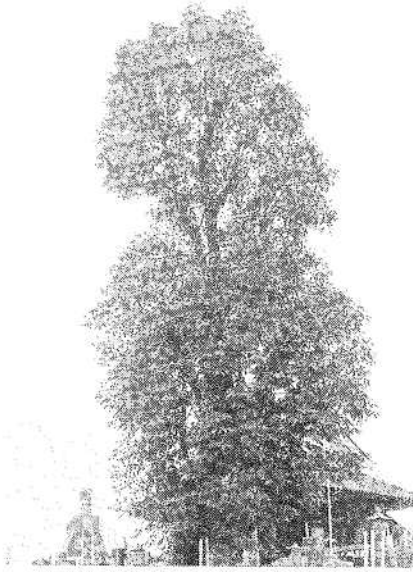
26. トチノキ (とちのき科)

山地にはえる落葉高木で、時には人家に植えられたり街路樹とされることもあり、本県の県木となっている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	延命院のトチノキ	泉町4-30	小針 孝哉	18.0	3.4	市指定、樹齢約350年

(昭50・3・25指定)

延命院の墓地内のトチノキで、周囲を墓石に囲まれているが、市内随一の巨木である。



トチノキ



ナツグミ

27. ナツグミ (ぐみ科)

山野にはえる落葉低木あるいは小高木で夏、長い柄の先に実がなってたれさがり赤く熟する。

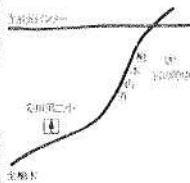
No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	姿川第二小のナツグミ	砥上町4-30	市 教 委	4.8	1.6	
(2)	清原中央小のナツグミ	道場宿町848	市 教 委	5.5	1.6	

(1) 姿川第二小のナツグミ

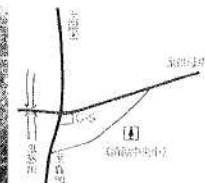
(2) 清原中央小のナツグミ



第二小の校舎裏のナツグミで、老木である。



中央小の校舎北側のナツグミで、巨木である。



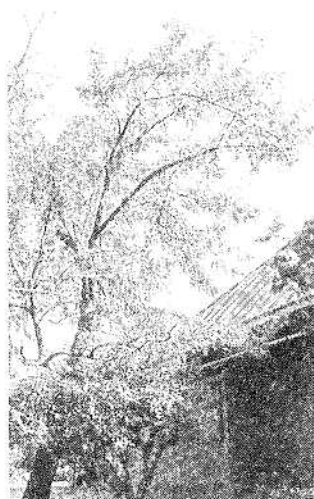


## 28. ナツメ (くろろめもどき科)

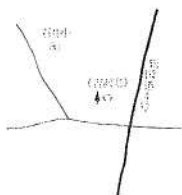
ヨーロッパ南部及びアジア西南部原産の落葉低木あるいは小高木で、初夏に入ってようやく芽が出るのでナツメの名がある。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	石井町のナツメ	石井町1274	吉沢 久夫	10.0	1.2	
(2)	下砥上町のナツメ	下砥上町863	小林 政市	15.0	1.0	

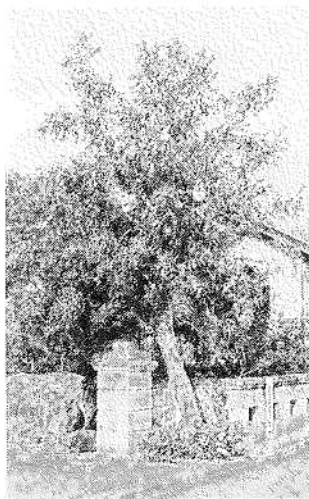
### (1) 石井町のナツメ



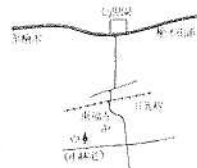
吉沢宅の母屋裏のナツメで、この木としては大木である。



### (2) 下砥上町のナツメ



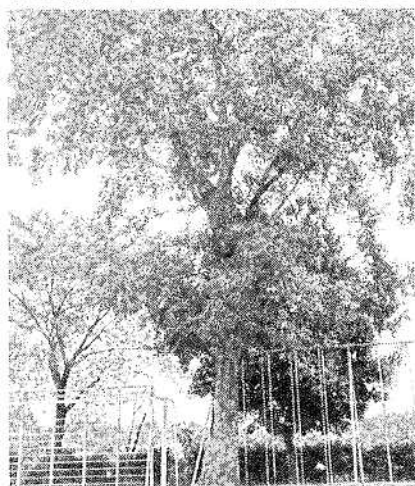
小林宅の入口に植栽されたナツメで、樹勢がおう盛である。



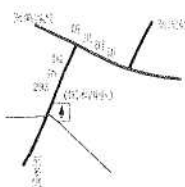
## 29. ナンキンハゼ (とうだいぐさ科)

中国原産の落葉高木で、時には庭園に栽培されることもある。ナンキンは南京で中国産のハゼという意味である。当地方では、めったにみられない。

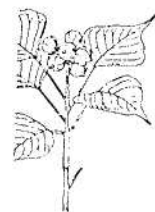
No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	国本西小のナンキンハゼ	新里町丁292	市 教 委	19.0	2.1	



西小の校庭の東南のナンキンハゼで、樹齢150年にも及ぶ大木である。



ナツメ



ナンキンハゼ

### 30. ハリギリ (うこぎ科)

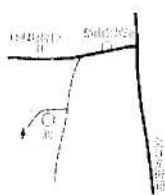
広く各地の山地にはえる落葉高木で、桐のような大きな葉と枝に針があることからこの名がある。通称アタグラといわれている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	飯山のハリギリ	飯山町912	福田 茂輝	22.0	4.6	市指定



(昭45・1・11指定)

ハリギリは大きくなる前に伐採されてしまうことが多く、このような巨木はまれであり、県内随一と思われる。



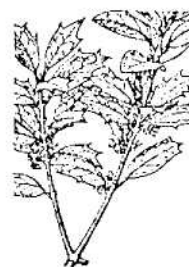
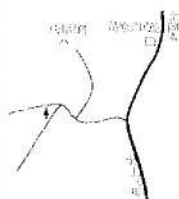
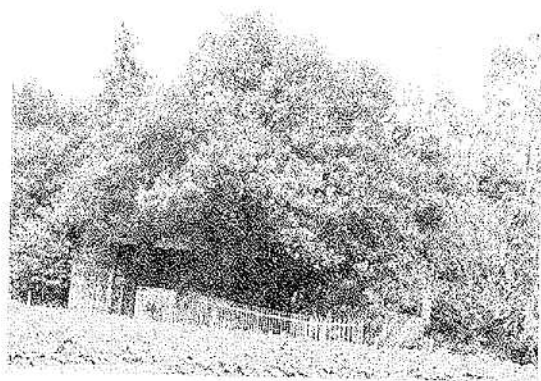
### 31. ヒイラギ (もくせい科)

関東以西の山地に自生し、または庭園に植えられている常緑の小高木である。

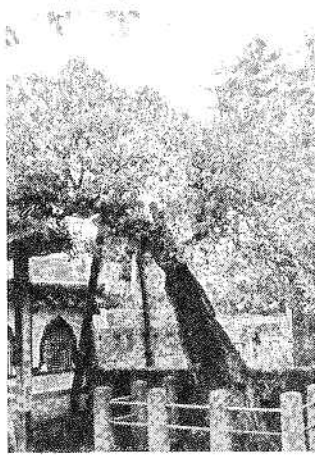
No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	竹下のヒイラギ	竹下町438	阿久津 一二	15.0	4.0	市指定、樹齢約500年
(2)	清巖寺のヒイラギ	大通り5-3-14	樋口 良弘	5.0	2.2	
(3)	飯田町のヒイラギ	飯田町1045	阿部 英男	5.0	2.1	

(1) 竹下のヒイラギ (昭38・3・5指定)

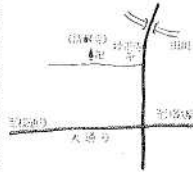
均整のとれた樹冠の樹齢500年に及ぶ老木で、全国的に見てもまれな大樹である。



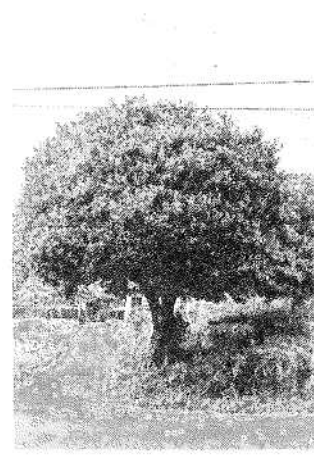
(2) 清巖寺のヒイラギ



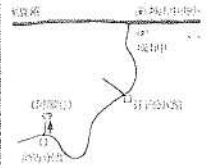
清巖寺の中門わきのヒイラギで、名刹清巖寺の歴史をしのぶことができる老樹である。



(3) 飯田町のヒイラギ



阿部宅へのかど道入口のヒイラギで、樹勢がおう盛である。

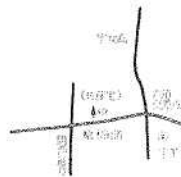
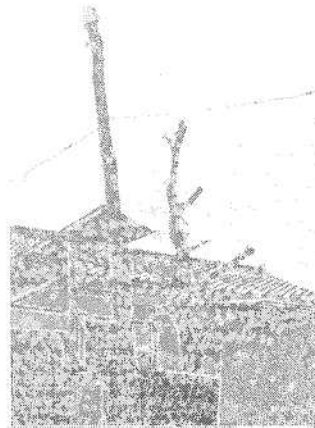


32. ヒトツバタゴ (もくせい科)

本州中部の木曾川流域と対馬に自生する落葉高木であるが、あまり見なれない木であるため、ナンジャモンジャノキと呼ばれている場合がある。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	幸町のヒトツバタゴ	幸町13-16	佐藤 伊男	12.0	1.3	

幸町の楡木街道沿いの佐藤宅の庭のヒトツバタゴである。

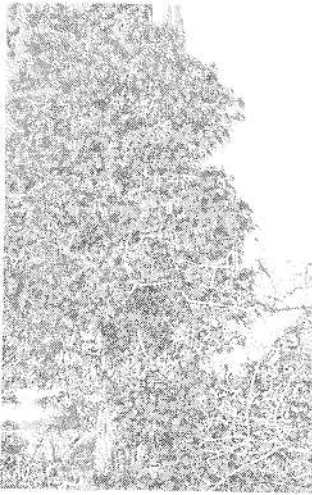


33. ヒバ類 (ひのき科)

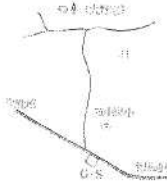
チャボヒバ、スイリュウヒバ(イトヒバ)ともヒノキの園芸品種で、庭木として植栽されている。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	大谷町のスイリュウヒバ	大谷町172	大野幸一郎	6.0	3.2	
(2)	宝木本町のスイリュウヒバ	宝木本町1710	岩崎長四郎	12.5	1.4	
(3)	大谷町のチャボヒバ	大谷町1110	渡辺 俊	13.0	1.3	

(1) 大谷町のスイリュウヒバ



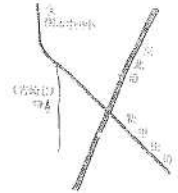
大野宅の庭の西側のスイリュウヒバで、雷で上部は欠損しているがまれに見る大木である。



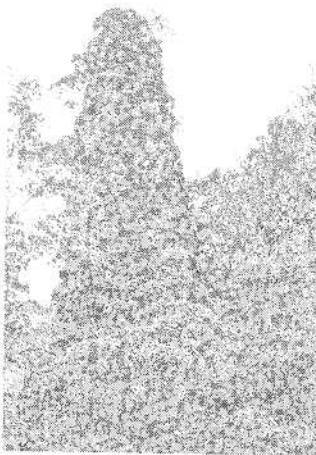
(2) 宝木本町のスイリュウヒバ



岩崎宅の前庭のスイリュウヒバで、この木としては大木である。



(3) 大谷町のチャホヒバ



渡辺宅の前庭の西側のチャホヒバで、玉造りになっている。



スイリュウヒバ

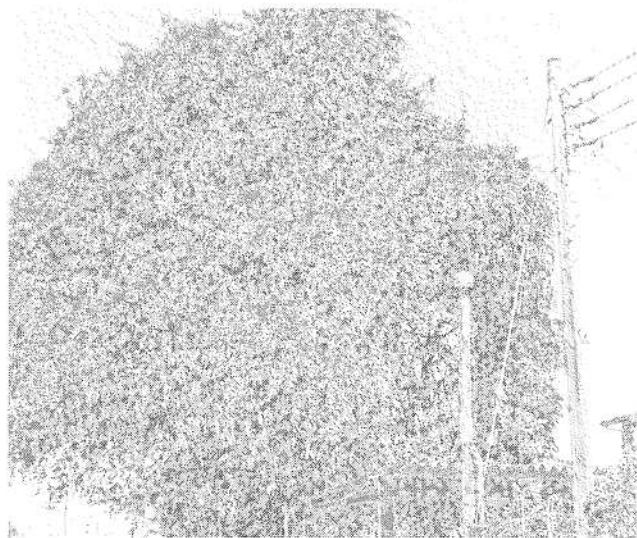
### 34. フジ (まめ科)

中部以西の山野に自生するが、時には観賞用として人家の庭園に植えられるつる性の落葉低木である。

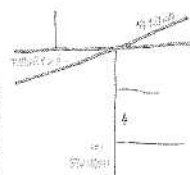
No.	名称	所在地	所有(管理)者	高	周	備考
(1)	中鶴田の大フジ	鶴田町264	加藤 静	16.0	1.2	市指定、樹齢約200年
(2)	姿川第一小のフジ	西川田町1373	市教委	2.5	1.0	市指定
(3)	豊郷公民館のフジ	関堀町370-5	市教委	2.5	1.6	
(4)	愛隣幼稚園のフジ	桜2-3-27	斉藤 千秋	3.0	1.3	
(5)	国本西小のフジ	新里町丁292	市教委	2.5	1.2	
(6)	豊郷中央小のフジ	関堀町337	市教委	2.5	1.0	



(1) 中鶴田の大フジ (昭35・1・28指定)

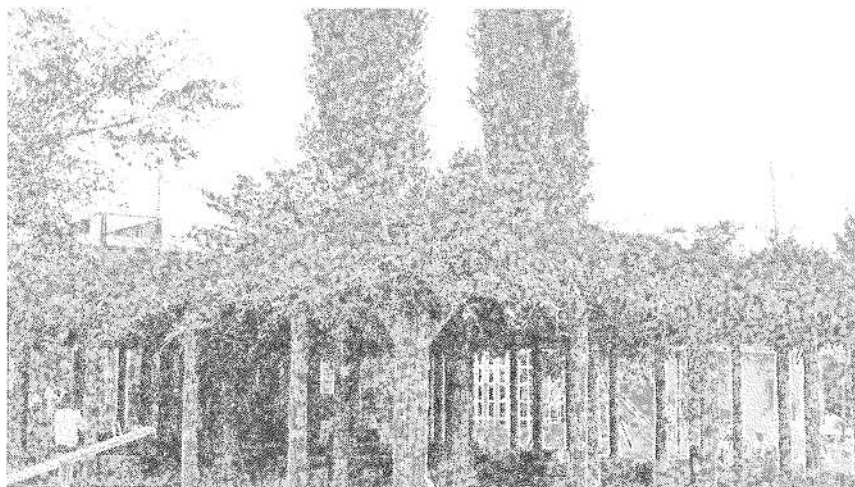


宮原中学校の北東に位置するフジで、エノキに絡まって自然の姿をよく保っている巨樹である。

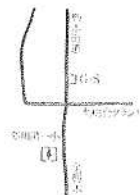


ヤマフジ

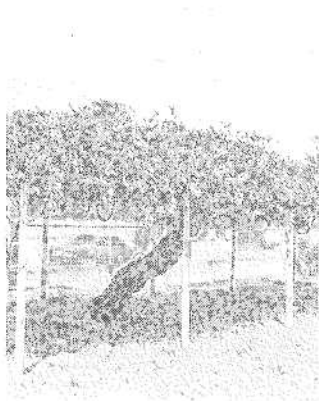
(2) 姿川第一小のフジ (昭51・7・17指定)



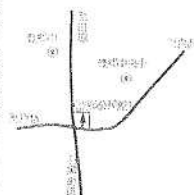
第一小校庭内のフジで、東西20m南北12mのフジ棚に開花した時は見事である。



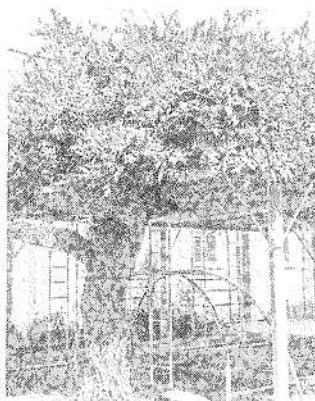
(3) 豊郷公民館のフジ



公民館の西側のフジの古木である。



(4) 愛隣幼稚園のフジ



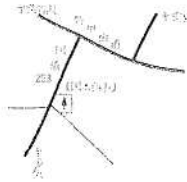
幼稚園の園庭内のフジである。



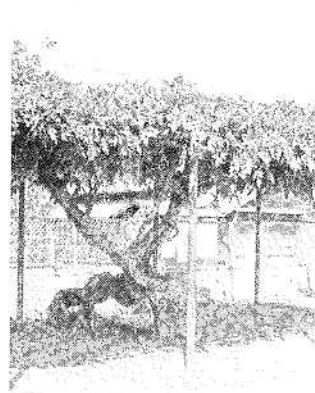
(5) 国本西小のフジ



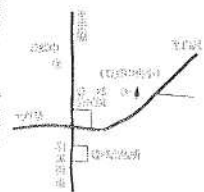
西小の校庭西側のフジである。



(6) 豊郷中央小のフジ



中央小の校庭西側のフジである。



### 35. マツ類 (まつ科)

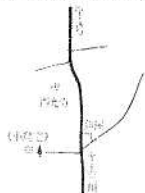
アカマツ、クロマツは日本に広く自生分布している常緑高木で、しばしば植林もされるし庭木としても用いられることが多い。

No.	名称	所在地	所有(管理)者	高	周	備考
(1)	中島町のマツ	中島町36-5	小島豪市郎	9.5	2.0	黒松
(2)	瓦谷町のマツ	瓦谷町16	根本 保	2.5	1.7	赤松
(3)	上欠町のマツ	上欠町1082	松本 一	5.0	1.3	黒松
(4)	宇都宮高校のマツ	滝の原3-5-70	県 教 委	4.0	0.7	白松 2本
(5)	東峰町のマツ	東峰町3002	福嶋 悠峰	6.0	0.3	白松

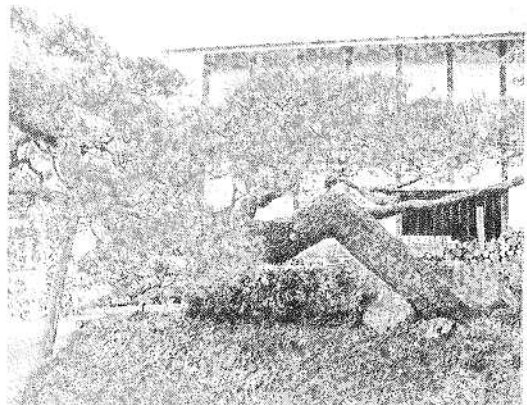
(1) 中島町のマツ



小島宅の入口の黒松で、曲幹の大木で壮観である。



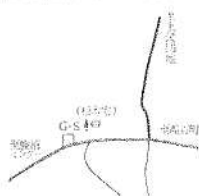
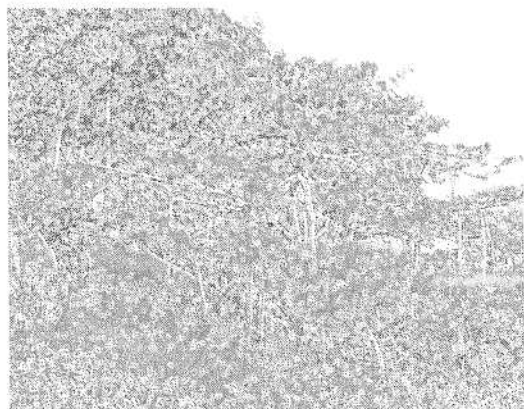
(2) 瓦谷町のマツ



根本宅の入口の曲幹の赤松で、非常に趣きがある。

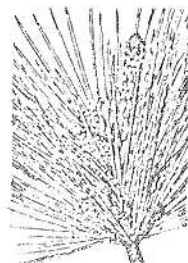


(3) 上矢町のマツ



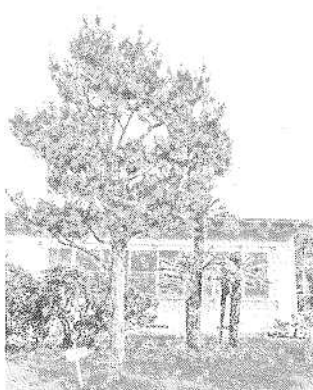
ムクロジ

松本宅、長屋門脇の曲幹の黒松で、「臥龍の松」と呼ばれている。

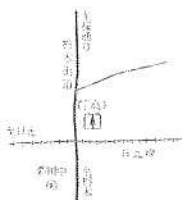


クロマツ

(4) 宇都宮高校のマツ



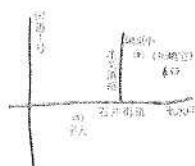
宇都宮高校、体育館前の白松で、2本植栽されている。



(5) 東峰町のマツ



福島宅の万葉植物園内の白松である。なお、白松は、中国原産である。



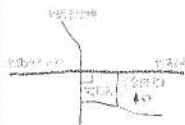
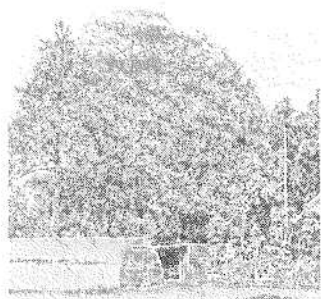
36. ムクロジ (むくろじ科)

本州の中部以西の山林に自生する落葉高木で、種子は正月の羽根つきの羽根の球に使用する。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	砥上町東のムクロジ	砥上町513	金田 光	20.0	1.7	
(2)	砥上町西のムクロジ	砥上町503-1	中島 章梧	20.1	1.6	

(1) 砥上町東のムクロジ

金田宅母屋の西側のムクロジである。



(2) 砥上町西のムクロジ

中島宅庭内のムクロジである。



### 37. モチノキ (もちのき科)

本州、四国、九州の海岸及び山野にはえる常緑小高木で、観賞樹として庭園にも植栽され、樹皮から烏もちを作ることができるのでこの名がある。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	西原町のモチノキ	西原町142	中村 欣平	8.0	2.8	

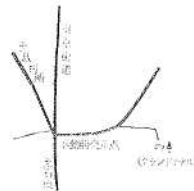


グランドホテル

庭内のモチノキで、まれに見る大木である。



モチノキ



モミ

### 38. モミ (まつ科)

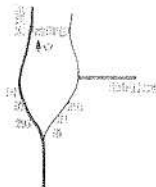
山地に自生する常緑の大高木で、直立してそびえ、材は種々の用途に使用される。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	西根のモミ	徳次郎町1201	池田 半吾	40.0	3.0	
(2)	智賀都神社のモミ	徳次郎町2478	外鯨 海夫	40.0	4.1	

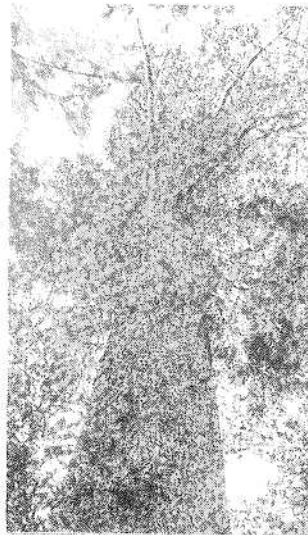
(1) 西根のモミ



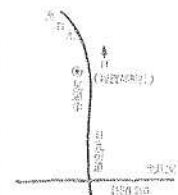
池田宅の屋敷林の中のモミで、ひとときわ高くそびえている。



(2) 智賀都神社のモミ



智賀都神社本殿西側の社叢中のモミの大木である。





### 39. モミジ類 (かえで科)

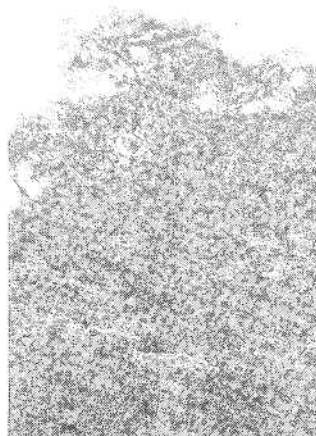
山地にはえる落葉高木で、かえでは蛙手の意味で葉の形の類似からきており、特にモミジとよぶのは紅葉(もみじ)が他のものより優れていることによる。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	持宝院のモミジ	田下町564	伊東 永峰	12.0	2.8	市指定
(2)	下金井町のモミジ	下金井町339	横倉 健之	19.0	4.6	
(3)	氷室町のモミジ	氷室町808	共同墓地	12.0	2.3	
(4)	清原出張所のモミジ	竹下町311	宇都宮市	11.0	2.2	
(5)	平石南小跡のモミジ	石井町1710	宇都宮市	10.0	2.1	



タカオモミジ

(1) 持宝院のモミジ (昭32・1・11指定)



市指定の社叢に含まれる鐘楼西側のモミジである。



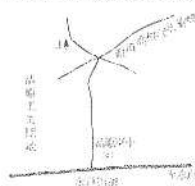
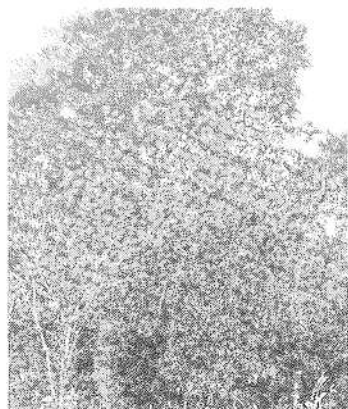
(2) 下金井町のモミジ



横倉宅母屋の裏側のモミジで、二本のモミジが一本になったと思われる大木である。

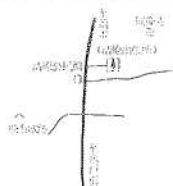
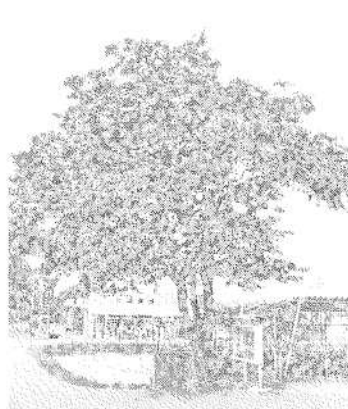


(3) 氷室町のモミジ



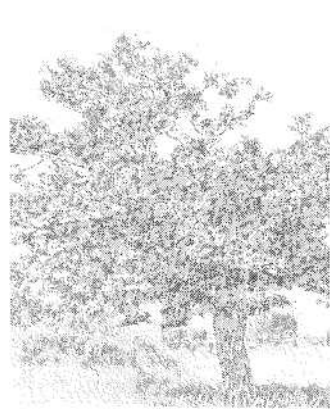
氷室中の島の共同墓地のモミジである。

(4) 清原出張所のモミジ



市役所の清原出張所内のモミジである。

(5) 平石南小跡のモミジ



平石南小跡地の南西のモミジである。

#### 40. ヤシャブシ (かぼのき科)

各地の山中にはえる落葉高木で、果球が昔歯を染める「おはぐる」に使用されたのでオハグロノキとも呼ばれる。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	大峯山のヤシャブシ	大網町北口陰	倭文 光雄	7.0	3.3	市指定、樹齢約300年

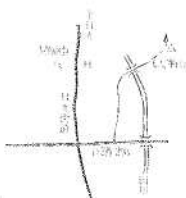


(昭54・11・13指定)

大峯山の山頂北東のヤシャブシで、まれに見る大木である。



ヤシャブシ



ヤマツツジ

#### 41. ヤマツツジ (つつじ科)

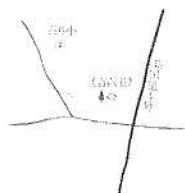
各地の山地に自生する半落葉低木で、初夏に枝の先に赤い花をつける。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	石井町のヤマツツジ	石井町1274	吉沢 久夫	3.0	1.5	
(2)	上矢町のヤマツツジ	上矢町491	福田 秀夫	4.0	0.7	

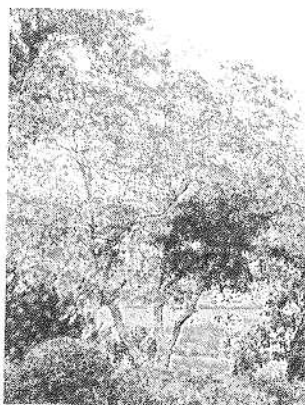
##### (1) 石井町のヤマツツジ



吉沢宅母屋裏のヤマツツジの大木である。



##### (2) 上矢町のヤマツツジ



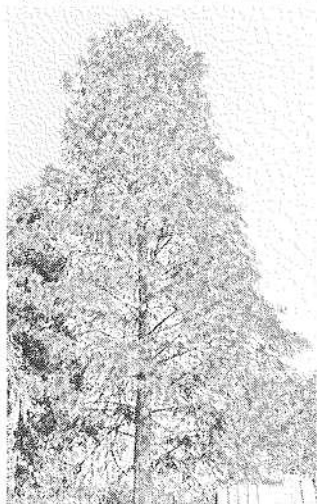
福田宅庭内のヤマツツジの古木である。



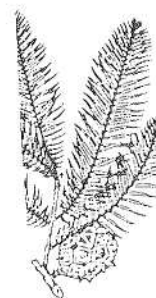
42. ラクウショウ (スギ科)

フロリダやメキシコ湾沿岸地方の沼沢地に自生する落葉高木で、秋になると葉が落ちるのでこの名がある。

No.	名 称	所 在 地	所有(管理)者	高	周	備 考
(1)	平石南小跡のラクウショウ	石井町1710	宇都宮市	15.0	1.3	



平石南小跡地北  
西に位置するラク  
ウショウである。



## 宇都宮大学構内所在名木一覧

『宇都宮大学庭園・温室植物目録（宇都宮大学農学部・  
学術報告特輯・第22号、1968）1 庭園植物の部』から

1. ま つ 科      ・シロマツ(ハクショウ)      ・ダイオウマツ
2. す ぎ 科      ・メタセコイア(アケボノスギ)      ・センペルセコイア      ・ラクウショウ(ヌマスギ)
3. ひ の き 科      ・エンピツビャクシン
4. や な ぎ 科      ・ギンドロ
5. く る み 科      ・ノグルミ(ノブノキ)
6. か ば の き 科      ・セイヨウハシバミ
7. ぶ な 科      ・コルクガシ      ・アベマキ      ・ツブラジイ(シイ)
8. く す の き 科      ・シロモジ
9. ま ん さ く 科      ・マルバノキ(ベニマンサク)      ・イスノキ      ・フウ      ・モミジバフフ
10. と ち ゅ う 科      ・トチュウ(杜仲)
11. ば ら 科      ・オオシマザクラ
12. う る し 科      ・ナンバンハゼ
13. む く ろ じ 科      ・ムクロジ
14. く ろ う め も ど き 科      ・ケンポナシ      ・ネコノチチ
15. し な の き 科      ・エノキウツギ(ウオトリギ)
16. み そ は ぎ 科      ・シマサルスベリ
17. も く せ い 科      ・デワノトネリコ
18. む ら さ き 科      ・マルバチシャノキ



## あ と が き

関係者の御指導、御協力によりまして、文化財シリーズ第5号として「宇都宮の名木」を発刊することができ、厚くお礼申しあげます。

樹木は、人間が最も日常的に親しんでいる自然であり、樹木の緑は、人間を精神的にも生理的にも浄化する作用をもっています。

本冊子では、本市に残る樹木のうち巨木・古木・珍木等を一括して「名木」と称し収録したものです。

本市には、地域住民に古くから親しまれているだけでなく、故事来歴のある樹木が少なくありません。

本冊子は、樹木の大きさのほか簡単ですが故事来歴を有する樹木については解説を加えてみました。

しかし、本冊子に掲載した樹木以外にまだ多くの名木が現存すると考えられますが、一応、市内の代表的な樹木について概観できると思います。

名木については、さらに広範囲にかつ詳細に調査を継続するつもりですので、本冊子を御一見いただきまして調査もれの樹木等について御指摘いただければ、編集に携わった者として喜びにたえません。

昭和57年2月

編集責任者

宇都宮市教育委員会

社会教育課長 半 田 昭

文化財愛護シンボルマークについて



このマークは文化財愛護運動の一環として昭和41年5月に定められたもので、ひろげた両方の手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である斗拱のイメージを表わし、これを3つ重ねることにより文化財という民族の遺産を過去・現在・未来へと永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

---

昭和56年2月27日発行

## 宇都宮の名木

発行 宇都宮市教育委員会  
編集 宇都宮市教育委員会社会教育課  
表紙題字 桜井敬朔  
印刷所 (有)井上総合印刷所

---



文化財愛護  
シンボルマーク

文化財シリーズ第5号